

JID NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1989 9・10

役員選挙のお知らせ（第2報）

選挙管理委員会委員長 野村禮七郎

10月中旬、第一報でお知らせのように、2年任期役員（平成2年4月1日～平成4年3月31日）選挙を実施いたします。

先にご参考のため配布の「役員選挙規定」に従って下記スケジュールで行われます。積極的なご協力をお願いいたします。

役員選挙スケジュール

項 目	月 日 (予 定)	内 容
⑥選挙PR(第2回)	'89 11/6	「JID NEWS」誌上
⑦投票用紙配布	17	正会員全員一覧表
⑧投票〆切	12/18	通信投票〆切
⑨定足数	25	定足数確認
⑩開 票	'90 1/10	本部にて選管委員会
⑪報 告	1/中旬	「JID NEWS」誌上 又はDM

選挙の概要については、「役員選挙規定」(別紙資料)をご参照下さい。スケジュール等のお問合せは本部事務局(電話 03-403-3649)まで。

目 次

●役員選挙のお知らせ(第2報).....	1
●創立30周年記念事業の動きー5.....	2
●「インテリアデザイナーズ・デイ・イン・ナゴヤ」報告.....	3
●研究発表会開催.....	5
●デザインツアー.....	5
●展覧会福岡展・デザインイヤー合同展・名古屋展・大阪展の報告、東京展の案内.....	6
●記念事業基金募集その後の報告とお願い.....	14
●1989・第2回理事会議事録.....	15
●1989・臨時理事会議事録.....	19
●「憲章」を改め「JIDの信条」へ、さらに「JIDの諸問題に対する理事会の考え方」.....	20
● 委員会の動き	
●選考委員会.....	21
●交流委員会.....	22
●「平成2年度インテリアプランナー講習」ご案内.....	22
●デザインコンペ2題.....	22
●関連団体の動き.....	23
●会員の消息.....	24
●新入会員の紹介.....	25
●事務局短信.....	30



JID 30 記念事業の動き — 5



記念事業委員長 川上 信二

記念事業は、最後の山場である展覧会東京展の第一会場が銀座ポケットパークで10月19日より開催されています。11月20日から1週間予定されている竹芝湾岸のダイコーライティングラボでの第二会場の準備に、委員をはじめ関係各位はさらに鋭意奮闘中です。

すでに前号で報告されました記念式典、基金募集状況以後、8月26日からの世界デザイン博・デザインギャラリー合同展、9月14日からの展覧会名古屋展、そして9月15日・16日のインテリアデザイナーズデー・イン・ナゴヤ、このイベントを基点とした10日間のデザインツアー、さらには9月16日、同じ名古屋での研究発表会と、まさに記念事業の大きな山場を迎えて、この時期、中心となっていた中部支部の皆様は勿論のこと、各事業の企画から推進に献身的に努力していただいた各委員の皆様、そして関係各位の方々には心より感謝申し上げる次第です。

記念事業は、この名古屋での熱気を受けて展覧会大阪展が10月6日から開催され、6日間大盛況のうちに閉幕いたしました。

今回は、これ等盛り沢山のイベントの報告を各事業の担当の方からさせていただきました。

東京展は勿論のこと、ニューマップの発行、機関誌30周年記念特別号—110号の発行、そして研究会報告書、記念事業報告特集号—111号の発行とまだ記念事業は大切な事業を残しています。全ての事業の成功と同時に、今回の30周年記念を契機に新たなJID前進のため、この事業の反省を大きな糧として役立てるよう努力していきたいと思っていますので、よろしくご意見ほか提案などお寄せいただくようお願いいたします。

記念事業経過報告— 5

'89. 10. 13 現在

- 8月1日 ● 第2回理事会へ経過報告— 4
- 26日 ● デザイン博、デザインギャラリー3団体合同展開始、オープニングパーティ開催
- 9月3日 ● 展覧会福岡展終了、入場延人員20,000名
- 4日 ● 第33回常任委員会— 事業の進捗状況チェック、他
- 14日 ● 展覧会名古屋展開始、マルエイ・ハローネ 1F、5F、オープニングパーティ開催
- 15日 ● デザインツアー各国代表12名、東急ホテルに集合、ツアー開始(中部事業支部担当)
● インテリアデザイナーズデー・イン・ナゴヤ開催— デ博、名古屋展見学
● 同大交流パーティ開催— 名鉄グランドホテル、市長はじめ190名参加
- 16日 ● 同ワンデーツアー・クラフトコース実施— 瀬戸見学、約20名参加
● 同研究発表会開催— サンゲツホール、約100名参加
● デザインツアー 世界デザイン博他見学、ホームステイ実施
- 17日 ● デザインツアー 名古屋→福岡、シーサイドもち他見学、親睦会(九州事業支部担当)
- 18日 ● デザインツアー 有田、太宰府等見学、夕食会
- 19日 ● デザインツアー 福岡→大阪・市内見学、デザイントーク、親睦会(関西事業支部担当)
- 20日 ● デザインツアー 「古都・京都文化を知る」夕食会
- 21日 ● デザインツアー 大阪→横浜・マイカル本牧、横浜博見学(関東事業支部担当)
- 22日 ● デザインツアー 東京都内ホームステイ別に見学、ホームステイ実施
- 23日 ● デザインツアー ホームステイ先より各グループ別見学
● デザインツアー 16時より原宿ハイネケ

ンビレッジにてTokyo Night開催、180名参加 各国代表の発表（含スライド）、柏木博、宇波彰両氏の講演、親睦パーティ開催

- 9月24日 ●デザインツアー 赤坂東急ホテルにて解散
26日 ●展覧会名古屋終了
29日 ●第3回理事会へ経過報告ー5
10月2日 ●第34回常任委員会 ― 記念事業収支の見直し検討と対策
5日 ●デザインギャラリー3団体共同展終了
6日 ●展覧会大阪展開始、近鉄百貨店アベノ店7F、オープニングパーティ開催
●南御堂・同朋会館講堂にて記念セミナー開催
11日 ●展覧会大阪展終了
19日 ●展覧会東京展・第1会場 銀座ポケットパークにて開始、12月5日まで開催（予定）
20日 ●機関誌インテリアデザイン110号JID30周年史発行（予定）
11月初旬 ●インテリアマップ発行予定
20日 ●展覧会東京展・第2会場 ダイコーライティングラボにて開始予定（11月26日まで）
22日 ●'89国際家具見本市特別企画「フォールディングファニチャー大集合」協賛開始（予定）

記念事業推進状況

'89. 10. 13 現在

●展示事業	●福岡展	5/1～9/3 シーサイドもちで開催 入場延人員 2万名
	●名古屋展	9/14～26 マルエイ・ハローネで開催 好評裡に終了
	●大阪展	10/6～11 近鉄アベノ店で開催 好評裡に終了
	●東京展	10/19 第1会場銀座ポケットパーク開催中 12/5 まで 11/20 第2会場 ダイコーライティングラボ開催にむけ鋭意準備中
	●世界デザイン博覧会	8/26よりデザインギャラリーにて3団体合同展、盛況裡に10/5終了
	●共同事業（IFFT）	11/22 フォールディングファニチャー集合をテーマに鋭意準備中

●研究事業	●研究会シリーズ	9/16 名古屋サンゲツホールにてリゾート施設のインテリア、シルバー社会のインテリア中間発表 参加者100名
●交流事業	●デザインツアー	9/15名古屋東急ホテルに集合 名古屋、福岡大阪、東京と各支部の協力を得てツアーを実施 9/23夕刻よりTokyo Night開催講演会パーティ（参加182名）にて成功裡に終了
	●インテリアデザイナーズデー	9/15名古屋博白鳥会場見学 名鉄グランドホテルの大パーティは、市長をはじめ190名出席 9/16クラフトツアーは約20名 瀬戸見学
	●記念式典・パーティー	5/26盛況裡に終了 JIDニュース6・7月号に報告した。
●出版事業	●JID30周年誌	10月中旬発行にむけ鋭意作業中
	●研究シリーズ(1)レポート	研究委員会の成果を待ち '90年3月発行予定
	●新・インテリアマップ	11/20 発行を目標に婦人画報社と提携、予想以上の進展中
●広報事業	●内外に対する広報	事業の総括的広報について作業中
●財務計画	●出納状況	収支実施状況の中間チェック
	●基金募集状況	引き続き募集をJIDニュース9・10月号にて呼びかけ中
	●総括	実施事業の決算報告と予定事業の収支予算チェック中

「インテリアデザイナーズ・デイ・イン・ナゴヤ」報告

交流委員会

去る9月15～16日、創立30周年記念事業の一つとして、インテリアデザイナーズデイ・イン・ナゴヤを世界デザイン博の行なわれている名古屋に於て開催した。

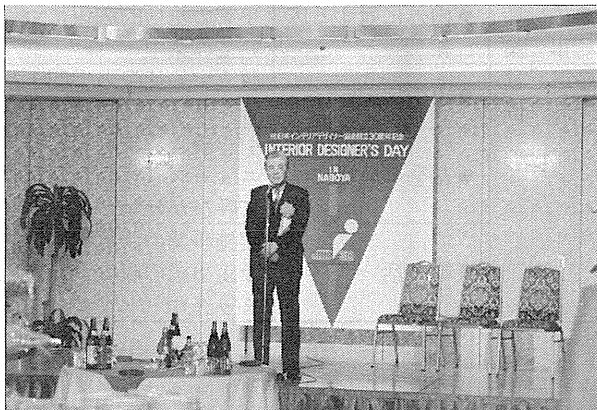
交流委員会事業として、全国に広がる会員の交流親睦、関係諸官庁・団体との交流と協会活動のアピールを目的に、地元中部支部の心強い協力を得て、第一日目（15日・老人の日）は、ワンディツアーとして世界デザイン博とJID30名古屋展の見学、夜は名鉄グランドホ

テルでのインテリアデザイナーズデイ・パーティと、名古屋の一日を楽しんだ。第二日目（16日・土曜日）は、オプションとしてクラフトツアー（瀬戸市）と研究発表会（研究委員会事業）の二手に別れ、2日間にわたる大イベントは無事終了した。

イベント内容が多様だったため、企画から開催までの期間、委員会、支部へのキャンペーン、中部支部との打合せ、招待者への挨拶、関係方面への交渉と、前夜まで東京と名古屋（中部支部）とでいろいろな準備に追われ



大盛会となったパーティー会場



パーティーで祝辞を述べる西尾名古屋市長



外国館で説明を受ける世界デザイン博見学グループ

たが、その甲斐あって開催当日は天候にも恵まれ、全国各地からの多数の会員や外部からの参加者があり、パーティには名古屋市長をはじめとする地元著名人・海外からのゲストを迎え、予想以上の盛会となり大成功であった。

（委員長・山本 棟子記）

●世界デザイン博見学

世界デザイン博見学参加申込者は82名の多数に上った。当日は天候に恵まれ、白石理事のレタリングによるJ I D 30インテリアデザイナーズデイ・イン・ナゴヤのサインボードの下に9：30白鳥会場正門西ゲート前に集合、順次入場し、ただちにデザインギャラリー内に専用デスクを設けた。

インテリア館（サンゲツ・カリモク）のご好意により、インテリア館とトヨタ館・N T T館・中部電力館にV I P待遇で優先入場ができ、暑さの中、時間と体力のセーブに大変助かった。希望者は16：00西門団体駐車場より大型貸切バスにてマルエイ・ハローネのJ I D 30名古屋へ向かった。

（浅野 盛治記）

●インテリアデザイナーズデイ・パーティ

メインイベントであるインテリアデザイナーズデイ・パーティは、9月15日、18：30より名鉄グランドホテルにおいて行なわれた。ジャズ演奏をバックに始まり、招待者を含め約200名の参加者が会場を賑した。

山本交流委員長の開会の辞、渡辺J I D理事長の挨拶、西尾武喜名古屋市長、加藤誠之デ博理事長のご挨拶の後、木村一男デ会議事務局長の乾杯で交流歓談に入った。その間、各界からの祝電披露、川上J I D 30実行委員長、中部の宇賀理事を始め各事業支部や委員会からそれぞれ30周年記念事業の報告が行なわれた。また、後藤国際交流委員長より外国からのゲストの紹介もあり、最後の白石担当理事の閉会挨拶まで、市長はじめ来賓の方々まで時間を忘れ、楽しく盛り上がった大パーティであった。パーティの司会は私と中部事業支部・池田高明氏が担当した。

（副委員長・長谷川隆之記）

●クラフトツアー

9月16日（土）サンゲツショールーム視察の後、一行19名を乗せてバスは一路愛知県陶磁器資料館へ向かい、歴史的資料や窯場を見学した。ここでガイド役を引き受

けてくださった若手陶芸家、中村康平氏と合流した。彼は、現代美術（彫刻）の世界から瀬戸で生産される磁器人形のキッチュさに興味を覚え、技術を習得するために瀬戸に住み始めた変り種。氏のアトリエは、かつてのタイル工場で、若手陶芸家たちが自然発生的に集まって誕生した焼物長屋の中にある。そこで彼の作品（陶芸のコラージュとでもいうような前衛的なもの）を前に、製作や作風について参加者から多数の質問があった。

小さなオブジェや食器用の窯のある陶房と、セラミック素材や大規模な作品を製作する時に利用する工場を見学した後、個人行動へ。殆どの人は、年に一回のせともの祭で賑う瀬戸川沿いの陶磁器店街を、厳しい残暑にも負けず歩き廻った様子。

今回のツアーでは、カジュアルな家庭用品や雑貨で知られるBee Houseの社長から、モノづくりや世界へ向けての経営者マインドを伺う機会もあり、様々な分野の人達との交流で有意義に過ごせたと思う。

（宮代 紀子記）

研究発表会開催

快晴の9月16日（金）名古屋榊サンゲツ6階ホールにおいて「シルバー社会のインテリア」「リゾート施設のインテリア」の研究発表会が多くの方々の協力を得まして盛大の内、発表会が実施されました。

中部事業支部、交流委員会、国際委員会の協力を得ました発表会。紙上をかりまして心よりお礼を申し上げます。

尚、発表の要旨など、現在各研究メンバー、委員が取りまとめております。大阪での「研究セミナー」の状況なども、一緒に次号にて、詳細をご報告致します。

（研究委員会 山田伊三郎）

デザインツアー

国際委員長 後藤 宣夫

デザインツアーは、インドネシア、シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、韓国のインテリアデザイナー協会から各2名ずつの代表者の参加を得て、去る9月15日より名古屋、福岡、大阪、横浜、東京と回って、9月23日に無事打ち上げパーティーを済ませました。ス

ケジュールや参加者のプロフィールについてはJ I Dニュース7・8月号でお知らせしたとおりです。委員会としての報告書は、本年中にまとめるよう作業を進めています。

名古屋で、初めて海外からの12名の参加者が顔を合わせたときは、これだけ多彩なガイジン達とこれから10日間、どう付き合って行けばよいのか大変心細く思いましたが、そんな心配は全くの杞憂に終わりました。いざツアーが始まってみると、彼らの協力的な行動に、我々がむしろついて行くような場面が多々ありました。日本語が達者で東洋人としての誇りに満ちた韓国のオー・キスー氏、エレガントなヨーロッパ流文化人を感じさせるフィリピンのエディットさん、各地で協会員とカラオケに付き合っ、ホテル帰還は連日朝の2時というマレーシアの強者モハメッド、陽気な笑いでどんなプロブレムも吹き飛ばしてしまうシンガポールのブライアンなど、ツアーが和気合い合いの内に進められたのは、参加者一人々々の友好的なパーソナリティーに負う処大でした。

ツアー期間中は、企画運営ともに各事業支部に一切お任せして、国際委員は事業のコーディネーター兼助手を勤めました。ツアーがうまく進んだのは、大勢の会員の皆様の協力態勢があったからだと思います。中部支部の大橋さん、九州の柴田さん、関西の山崎さん、関東の竹中さんを始め、ご参画頂いた方々の捨て身のサポートに拠るものです。今回のイベントの柱の一つであったホームステイも、通算30人・日に上回るサービスを提供できました。

最終日、ハイネケンビレッジでの打ち上げパーティーでは、やゝアカデミックな前半部門で、日本の町の同じ場所での昼と夜のまさに対象的な光景をスライドで比べてみせた、シンガポールのゲーリー氏のプレゼンテーションや、見事な展示物の側でなぜか本物の名古屋城だけが草ぼうぼうだったという、オー・キスー氏のスピーチなど、我々のちょっと気がつかないような指摘がありました。それに続く柏木博氏、宇波彰氏による、足が地についたデザイン活動を考えるときアジアの問題は避けてどうれないという内容のお話がありました。

最後のパーティーの部では、180名の参加者を交えて、各国の民謡とダンスとドラ声をはり上げてのスピーチで、広大な故里から集合した仲間達との同胞感覚をアジア流に確認し合った後、タクシーでホテルに送り出しました。

各部屋では、我々の再会を約したカードを添えた花束が待っていたはずですが。モハメドだけは再度引き返してきて、二次会、三次会に加わったのは、いつもと同じでした。

これらの国々にいらっしゃるときは、彼らに連絡して下されば、いろいろ便宜を計ってくれることと思います。以下にフィリピンの参加者からの手紙を再録します。参加者にとって、我が国を見ることと同時に、各国との横の繋がりが出来たことが嬉しかったようです。この基盤を基に色々なことが出来そうです。国際委員会としても今後の交流態勢を検討していますが、皆様のアイデアをお寄せ頂ければ幸いです。

Dear Sirs :

What a wonderful week !

We are now back home in the philippines, refreshed and revitalized with the sights and sounds and feelings of Japan. Looking back, it was a beautiful world that was opened to us, not only in the design aspect but also in your whole collective consciousness as a country so excitingly expressed in the passing of your daily life.

We remember your modern buildings as well as your traditional homes, your vending machines and your authentic Japanese food, your contemporary interior design and your tatami rooms, the hustle and bustle of the trains and the subways, and the silence of your temples, shrines and gardens. Most of all, we remember the hardworking, goal driven character of your people and their warm hearts and humanity that has made Japan what it is today. The word is unbelievable.

We thank you wholeheartedly for these memories that no amount of money can buy, as well as the opportunity to dialogue with you and our Asian brothers. In the near future we look forward to a network of designers involving our different countries and cultures that can work together harmoniously in preparation for the coming century of the Pacific.

We also look forward to your coming to our country so we can thank you for the warm hospitality afforded to us during the entire length of our stay.

With our sincere appreciation and congratulation for your thirtieth anniversary, we remain,

Very sincerely yours,

EDITH L. OLIVEROS

NARDY AQUINO



インテリアデザイナーズ・デイ・イン・
ナゴヤパーティでのデザインツアー一行

“九州でのデザインツアー”

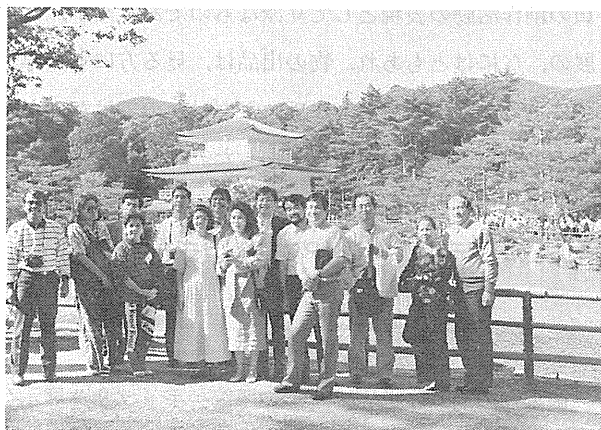
9月17日、WELCOMEの幟を持ちメンバー4名通訳1名にて空港へ出迎う。福岡住宅環境展シーサイドももちの街並を見学、当家（柴田）のお寺である干眼寺へ。お尚さんの出迎えを受け、夜は精進料理の舌づつみ、肉や魚を一切使わず野菜だけのバラエティメニューに食べ方まで習い全員大感激!! その日は多少の疲れもあってそのままホテルへ直行。9月18日朝からどしゃ降りの雨、台風が近づいているとの事。それでもマイクロバスがホテルの前へ出迎え、私の友人でもある食品会社の社長より弁当の差し入れを受け、いざ陶器の町有田へ、途中大量? の傘や飲物を買込み約2時間30分、やっと有田到着。月曜日は休館の九州陶磁文化館の展示場をこの日の為にわざわざ開館していたゞき、館長みずから有田の歴史や陶磁器に関する卓論をいたゞいた後館内の案内を受けました素晴らしい展示品に撮影禁止の所を特別にOKをもらい全員でバチバチと。帰りに展示即売場へ寄り道、買物ツアーと化してこれに時間を取られ太宰府へ着いたのが1時間遅れ。太宰府の権宮司みずから出迎えていたゞき太宰府名物梅ヶ枝もちのもてなしを受け、これまた全員大満足、その後宮境内の案内を受け、帰りに手みやげ迄いたゞき一路福岡市内へ、夜は「魚村」という魚料理の会席にて座敷に上り込み、気のいい仲居さん達と野球拳や炭坑節を全員で踊り出すやらで大さわぎ、本当に思い出多い1日となった次第です。アジアの皆様、そして私も含め九州の接待されたメンバーの皆様大変おつかれ様でした。

九州事業支部

広報委員長 柴田 龍介

“デザインツアー関西”

9月19日、デザインツアーご一行様は、台風22号を伴って大阪に到着。ホテルでゆっくり寛ぐ暇もなく、荒れ狂う大阪の街へウォッチングにスタート。まずは阪急ナビオで開催中の安藤忠雄建築展を訪問、安藤さんのご好意によりタダで見学。中之島をモチーフにした再開発の提案のあれこれに感嘆したあとで、大阪ビジネスパーク（O・B・P）に移動のツイン21ナショナルリビングプラザを見学。会員の八十常充さんの案内で最新電化パフォーマンスを体験。日本のハイテクノロジーの一面に触れていただきました。会員の参加5人。



金閣寺庭園にて



大阪ビジネスパーク 1Fホールにて

まもなく夜が来て、ホテル・ドゥ・スポーツプラザでは、会員22人を加えウェルカムパーティーとなりました。フィリッピン人のE. OriverousさんとタイのS. Yampraiさんのスライドによるトークに始まり、アルコールの消費量が増加するに連れて怪しげな外国語が飛び交うところ、

すっかり意気投合の境地となり、歌も踊りも飛び出す始末で国際親善の夜は深く更けていきました。

一夜明けて20日は台風一過の爽やかな秋晴れとなり、一行は京都へ。市内観光バス＜グランパノラマ京の一日＞ツアーに乗り込み、清水寺、三十三間堂、金閣寺、銀閣寺を巡りやや早い京都の秋を味わってもらいました。昼食は嵐山でしたが、渡月橋のもと＜渡月亭＞で用意された季節感溢れる京弁当に大きな歓声が上がりました。会員3名。

大阪にもどり、また夜が来て大阪の味＜にし家＞でうどんちりの夕食会。会員10人と前夜より数は少ないものの前夜に勝る盛り上がりでさらに国際交流の杯を重ねました。

限られた時間にいささか欲張ったスケジュールでお客様を大変疲れさせてしまいました。反省しております。

またお会いしましょう。お元気でご活躍を祈っております。

関西事業支部 山崎 晶

“ヨコハマのデザインツアー”

7月21日、大阪に出迎えに行かれた後藤国際委員長と、一行12名は12時半新横浜駅に到着、多少の疲れが見えましたが、全員元気で意欲充分という様子にひと安心しました。ザホテルヨコハマに荷物を置き、早速中華街、萬珍楼の飲茶（やむちゃ）で昼食、既に名古屋からJ I Dのメンバーとも馴染みの人も多く、暫し和やかな雰囲気の一時を過しました。食事後、横浜の新しいショッピングセンターMYCAL本牧を見学、こゝは新しいヨコハマをイメージして造られた所、となっていますが、その演出のやり方、新鮮さ、施工上の問題点、長期間に耐えるS. C. であるか等、各自色々は視点で見られた様で、率直な意見も出ていました。其の後横浜博覧会見学と、元町商店街に行く人と二派に分かれ、博覧会組は横浜美術館、三菱未来館等を見学、特設のクラシック鉄道を利用してホテルに帰られました。元町組は女性が多く、見学とショッピング、夕食後ホテルに戻りました。翌日はそれぞれホームステイの方々に出迎えられ、東京に行かれました。タイの二方は山手と三溪園を見学、日本の古建築と庭園に感銘を受けた様でした。川上、中村、長岡の各理事、後藤委員長をはじめ協会員皆様方のお骨折りでどうやら無事横浜での行事が終了したこと、厚くお礼申し上げます。今後の交流で本当の成果が生まれること

と思い、大きな期待をもっています。（竹中 幸雄）

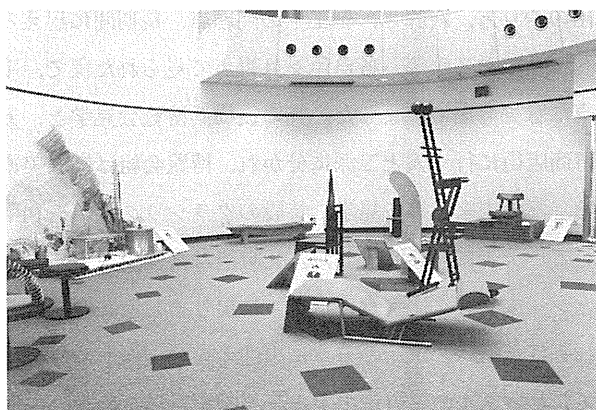
展覧会報告

“九州インテリアデザイン展を終えて”

九州事業支部で会員による作品展を始めて、今回で4度目になる。本年は福岡市政100周年の記念事業であるアジア太平洋博覧会の開催の年であり、それに呼応する形で昨年より準備を進めて来たところに、おりしもJIDの30周年記念とデザインイヤーに重なり、「'89デザインイヤー JID30周年記念 九州インテリアデザイン展」という、いやでも大きなイベントとして事が運び形となってしまった。昨年暮に発足した実行委員会のメンバー全員、大変な思いをしつつ無事、終って見ると結果は過去3回の作品展の積み重ねに貴重な体験という意義深いものとして一応終ることができ、皆一安心しているといった状況である。



福岡展会場 1



福岡展会場 2

今回は今まで以上に面白い作品が出そろったが、それは新入会員の4氏（酒井氏、北村氏、松本氏、森田氏）の作品が活性化をもたらしたと言える。又、新たに

加わった古参の会員（天本氏、中村氏）の作品も非常に心強いものとなった。反面前回まで出品を続けて来た会員の中で、今回出品がなかった人もあり、出品者の中で、くやまれる声が聞かれた。8月20日からの「若い世代のインテリアデザイン展」には将来入会の期待の持てる若い人達の予想以上の参加があり、見ごたえのある作品展となることができた。特に女性3人が加わったことで、なぜかフレッシュな感じが増したように思えた。ともあれ、会期を終えて、JID30周年の記念事業に九州事業支部として、なんらかの力添えができたのではないかと、一応出品会員全員、満足していることと思う。名古屋における中部事業支部の会員によるパネル出品も日頃の会員の創作活動の表現として立派なものであったが、九州展の、なにはともあれ、物の出品は、見る方にも、存在感のあるものとして楽しんでもらえたのではないかと、数人の会員と話をしたことであった。

“デザインEXPO'89” デザイン

ギャラリー合同展名古屋の報告

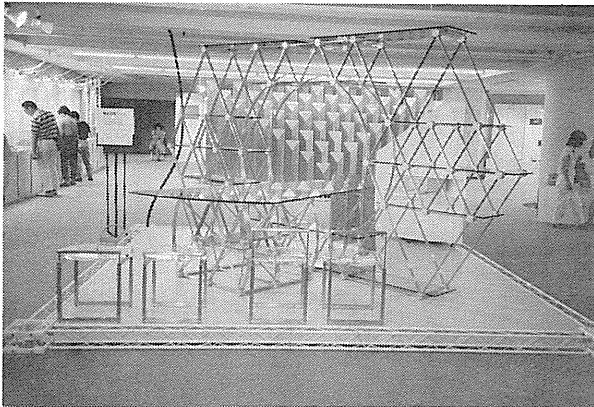
御承知の通り、世界デザイン博覧会ギャラリー展示会が8/26~10/5迄の6週間の期間、名古屋のメイン会場の白鳥会場センチュリープラザのテーマ館常設ギャラリー展示場でJID、JCDA、JJDAの3つのデザイン団体協会が合同で展示会を開催した。テーマの「新作法の創造」—新しいコミュニケーションの為に—とJID30周年記念事業のテーマ「流れ」にふさわしい様にと実行委員会の各位何回も検討会を行った。JIDの全会員の参加を主眼として、関東、関西、中部各事業支部の管轄下で4つのスペースブロックに分けて、それぞれ職域空間、公共空間、住空間とテーマ空間として展示計画をした訳です。関東事業支部の公共空間は海老沢プロデューサーのもとで企画がされ、島崎、塚原両氏の空間デザインにより、整然と傾斜に並列された美しい色彩の三角形のカラーボールが人が歩く角度によって色の変化が感ぜられ楽しい空間造りを提案、ギャラリー展示内部に極だって目立った事が印象的であった。関西事業支部の職域空間スペースは山口プロデューサーと建築の池上氏のデザイン提案、アルミのコネクターから展開するトライアングルのスランレス鋼の構造の力学的表現が家具から建築構造物への無限の空間展開を可能にする力強さと



3団体理事長、会長によるテープカット

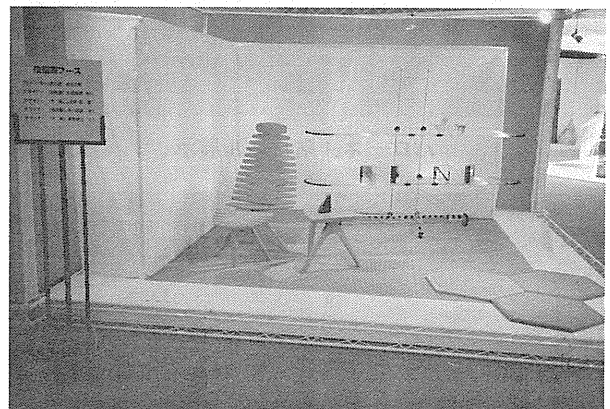


デザインギャラリー3団体合同展テーマ空間ブース



職域空間ブースおよび公共空間ブース

美しさを強く感じとった。中部事業支部の住空間スペースは熊谷プロデューサーとエレメントのデザイン即ち大橋氏の木の味を生かした大胆なイージーチェア、夏原氏の美しいアクリルライティングのデザイン、山田氏のシャープな吊り構造の棚表現、早川氏の六角形のタタミ座布団など住空間の新しい空間要素の表現提案であった。テーマ空間スペースは人と物とのかかわりがこの展示のテーマにあるように、人間の新作法を創造することの意味とも照らし合わせ、マネキン人形を使い茶わん、陶器類のクラフト商品、ネックレス、ブレスレット等のジュエリー商品、スポークチェア、イージーチェア、照明器具などインテリアエレメント商品など3団体のデザイナーと共同展示の効果をねらった。筆者宇賀がプロデューサー、展示・エレメントデザイン担当として尾崎、田村の両氏がこれに当たった。デザインされた物が人にどのようにかかわってくるか、それが職域空間であれ、公共空間であれ、住空間であれ、また人に直接ふれてくる衣であれ、道具であれ全て我々の夢と心に深く印象として刻み込まれる新しいデザイン提案、この合同展示の観覧者数11万6千人であった事実は見逃せない。パネル展示者の中には外国からのデザイン注文のエピソードもあった。天井



住空間ブース

の低さ、展示場の狭さなど悪条件の中で、実行委員会各位と装飾展示の俵ニシモト、またその責任者の会員の佐藤氏の努力に謝意を表したい。

世界デザイン博等担当委員会委員長 宇賀 敏夫

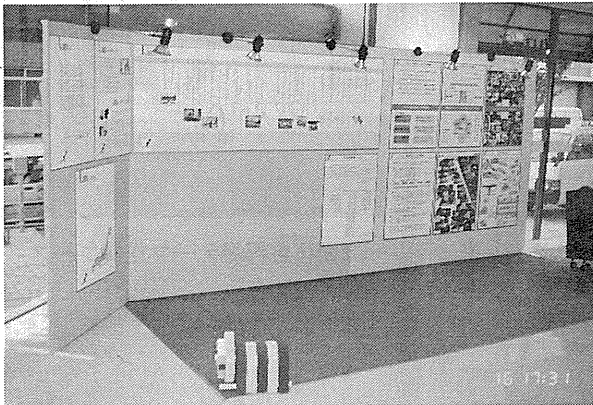
名古屋展の報告

J I D創立30周年記念名古屋展は、9月14日～26日までの13日間、丸栄ハローネ1階ロビー及び5階特設会場にて開催しました。初日は10時から、中部通産局、愛知県、名古屋市、世界デザイン会議、丸栄ハローネの来賓各位及び協賛会社の方々、J I Dからは川上実行委員長及び中部支部会員の出席のもとに、来賓各位と川上実行委員長によるテープカットで開幕しました。参列者一同会場観賞の後、引き続きオープニングパーティを会場内にて行いました。パーティ参加者約60名と大盛況、開幕13日間のスタートを切りました。会期中の来場者の皆様より御好評を戴きました。担当者一同、汗を流した甲斐があったと喜んでおります。期間中の来場者数約350名でした。会期中は名古屋在住のメンバーが中心となり2～3名が当番で、来場者の接待にあたりました。準備の

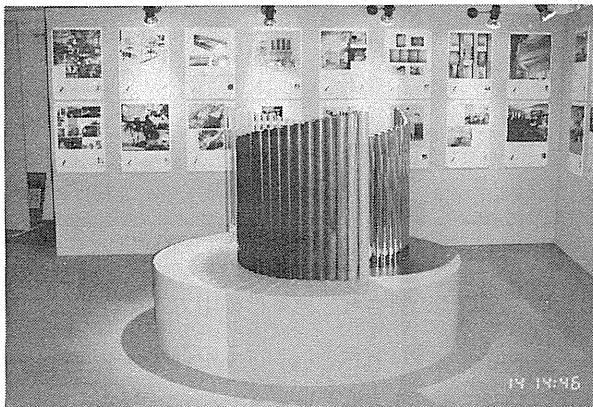
段階で色々と問題がありましたが無事終了したことを報告致します。

J I D 30周年記念中部事業支部実行委員長

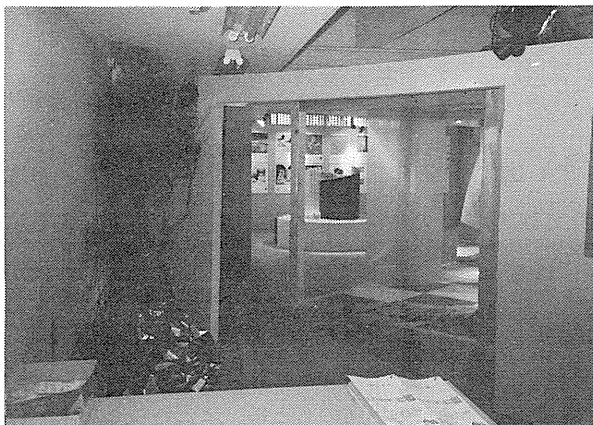
栃谷 賢一



ハローネ 1階パネル展示



特設会場 会員パネルコーナー



特設会場 展示風景

大阪展オープニングパーティに参加して

展覧会大阪展は10月6日、近鉄百貨店阿部野店7階催会場で開催しました。

当初企画されていた巡回展が不発に終り、名古屋展では中部事業支部の丸栄ハローネでの実現に大変な御苦労

を強い、この大阪展でもひとかたならぬ御苦労をおかけしてしまいました。これに関しては大阪展実行委員長・富田氏の卒直なご意見を添えた報告をいただいています。今回この企画にたづさわった私達としては貴重な課題として、今後に生かしていかなければならないと覚悟しています。

大阪展はこの様な曲折があったにも拘らず、柏原支部長をはじめとし、関西事業支部の方々の並々なご努力の上、無事開催されました。



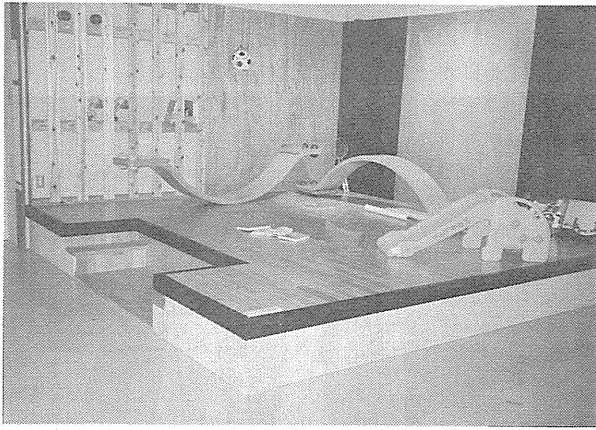
展覧会大阪会場案内ボード



会員パネルブース



テーマブース「玄関」および、「リビングB」



テーマブース「子供室」

野村事務局長ともども、10時開店直後、会場を拝見し、見事に企画通りの展示が完成されており、感激いたしました。午後は南御堂、同朋会講堂での記念セミナー「老人と子供と街」に参加し、東京からの研究会メンバーも交え予想より参加者が少なかったとはいえ、京大藤本教授、阪大元木教授ほか有識者との情報交換が出来たことは今後の研究会活動への大きなステップが築かれたように思います。

19時からは近鉄百貨店阿部野店10階バンケットルームで大阪展オープニングパーティが盛大に行なわれました。

渡辺理事長も東京からかけつけ、関西事業支部会員の精力的で企画力の豊かな成果に賛辞を贈り、来賓の方々はじめ、協賛企業、賛助会員、そして懐かしい顔も見える会員の方々100名余りの賑やかなパーティになりました。

富田実行委員長の協力企業、会員に対する切々たる感謝の言葉、柏原支部長の事業完遂への熱誠あふれる挨拶等々、今回の大阪展開催に投じた関係者皆様の並々ならぬご努力に改めて敬意を表しつつ、これからのJIDA展覧会の在り方など頭にめぐらしながら大阪を後にいたしました。

(川上 信二)

30周年記念全国巡回展は不発 各事業支部代行展開催

30周年記念事業は記念式典にはじまり、セミナー・デザインツアーなど15件を実行委員会で計画された。展覧会については当初関東地区中心で学生家具コンペ・椅子展・グループ展など小規模の案を第1回30周年記念事業委員会に持ち込まれ、ここで私達関西事業支部のような各支部会員は、どう参加することになるか、私達はいつも考える。20周年・25周年にも協会(関東中心の)実行

委員会で企画し、D・P・Tや国際家具展会場の一部で展示したものを、一部切り取って、中途半端な形で展示したことを思い出す。同じ事の繰り返しでは面白くない、今からでも各事業支部同規模で巡回する自主的な記念展をと、関西事業支部の要望として提案した。箱根フォーラムでも中部の宇賀さんなどが、強引な発言をされていたことを、あとで、川上委員長から届けていただいたテープで拝聴した。箱根フォーラムは今までになく盛り上がり、協会展について意見百出の盛況で、未定のままであった展覧会委員長も即座に決定し、実行に入ったようである。

今回のテーマ「アメニティをこえたインテリア」キーワード「五感に訴える」を決定し、会場日本橋高島屋の交渉不調、代替会場を銀座ポケットパーク10/19-12/5と大光ギャラリー11/20-11/26。この時期に全国巡回展は無理、急速記念展は各支部単位で代行開催することになった。九州事業支部5/1-9/3、中部事業支部9/14-9/26、関東事業支部10/19-12/5。各会場・会期が決められてから、関西事業支部展の実行委員会が発足した。会期を中部と関東支部の間で、適当な広さの、出来ればターミナル百貨店催場の会場。リストアップした中で、大阪南部ターミナル、最近リニューアルした近鉄百貨店アベノ店のご好意をいただき、ほっとした。

インテリアデザイン展をどうするか

協会の定款第4条、事業の第1に研究会・展覧会・講演会を行うと決めている。協会創立メンバー「デザイナー」が集まって考えたものと思う。20周年・25周年記念展の前に、46年・48年・50年関西事業支部では、5年の間に3回の「期待される住まいの装置展」を開催した。クラフト協会は、年一回東京・大阪で毎年作品展をやっている。JIDAはやらない。大雑把に言って、インテリアデザイナー協会の作品展となると、クラフト協会とJIDAの中間位ではないかと私は思っている。

20周年・25周年記念事業のためのアンケート結果でも約40%は「展覧会をやる」であったと私は記憶している。

今回の30周年記念展テーマ「アメニティをこえたインテリア」は既に3事業支部で終了した。

④ 九州支部展は共通テーマは出さず、会員個人作品を展示。

⑤ 中部支部展は共通テーマとキーワードは「五感に訴

えるもの」

テーマゾーンは実行委員会でまとめたキーワード表現と会員個人のパネル参加。

- ◎ 関西支部展は共通テーマとキーワードは「インテリアもっと遊・創」で計画を立てた。

大阪展実行委員会で作った企画は

- ① 協会展覧会委員会で練り上げたテーマ「アメニティをこえたインテリア」は面白いので使用する。
- ② キーワード「五感に訴える」はインテリア構成に不可欠の要素であり、あらためて、ここで抽象的な表現をして効果があるだろうか。大阪展の場合、出品は全て会員個人参加とする建前にそぐわないので。
- ③ メインのテーマゾーンはキーワードを前述の「インテリアもっと遊・創」として、狭いスペースに800品目の生活財をかかえ、東・西異文化の併存と言われる私達の住まいの現実を見据え、スペース別（玄関・DK・リビング×2・寝室・書斎・子供室）の約8帖×7ブース、7会員の個人出品とし、ささやかな提案を試みてみよう。
- ④ テーマゾーンの周辺に22名の会員個人出品（スペース900×900）パネル又は「モノ」を展示した。
- ⑤ テーマゾーン・会員個人出品ゾーンと同時にインテリア構成材の関連企業65社95口（スペース900×900）の協賛をいただいた。

30周年記念事業の展覧会は、前述の全国巡回展不発、各事業支部が代行して既に、④九州、⑤中部、⑥関西地区は終了、このあと、⑦関東地区の展示パターンはどうだろうか。インテリアデザイン展はこれでいいのか。

いずれにしても協会の展覧会はファインアートやクラフト・ジュエリーの展覧会と同じではあり得ない。じっくり時間をかけ、展覧会開催のスケジュール・スタイル・施工などのマニュアル化、協会の組織、経常活動まで考えないと、ローコスト・ハイインパクトの事業展開は、まことに至難のように思う。大阪展終了の今、報告の概要を書きながら。

30周年記念大阪展実行委員長 富田 卓司

東京展・第1会場オープン！

かねてより、ご案内中の展覧会東京展は、予定通り10月19日に会員パネルブース、学生優秀作品ブースがオー

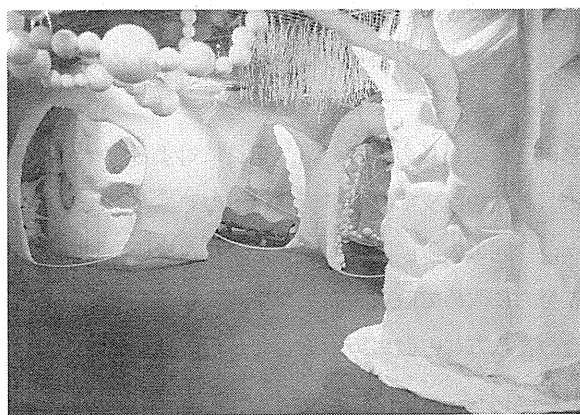
ブン、テーマブースはその日深夜まで作業にかゝり、正式には20日オープンという形になりました。



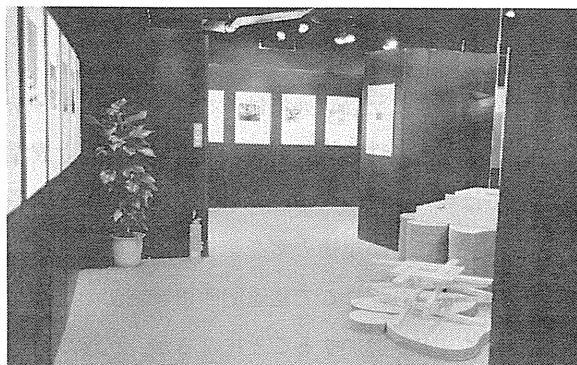
展覧会東京展第1会場入口風景



テーマブース説明風景



テーマブース



会員パネルブースおよび学生优秀作品ブース

その10月20日午前10時30分より会場の銀座ポケットパークでオープニングパーティが行なわれました。

雨上りの快晴、テーマブースの完成に2日間完徹のスタッフには銀座の爽やかな朝日は、いさゝかまぶしかったようでした。実はオープニングパーティそのものは、11月20日からのインテリアエレメントブースのオープンに合わせ、その会場であるダイコーライティングラボで盛大に行なうことになっているので、このポケットパークでは予定していなかったようですが、この館長高松氏が関係のプレスに声をかけるので是非にということで急きょ開かれることになりました。

そのため、急に電話で招集された出展者をはじめ、委員、事務局などあわただしい参集でしたが、出版関係数社を交えた30名ほどの出席者で、まず1階のテーマブースを見学、チーフディレクターの坂本和正氏より「ながれ」アメニティをこえたインテリアの表現として五感に訴えたるコンセプトの説明があり、2階の会員パネルブース、学生優秀作品ブースをひと通り見たあと、3階のレセプションルームでワインとサンドウィッチの軽食ながら落ち着いたパーティに移りました。高松館長から「銀座では是非インパクトのある提案展を、と考えていた希望が実現し、これからの45日間がたのしみだ」との話をいただき、川上実行委員長挨拶のあと、中村理事の音頭で乾杯、午後1時までなごやかなうちに歓談が続き、11月20日からの第2会場オープンへの努力を約して散会しました。中川委員長はじめ、司会の下島さんほか関係者の皆様、本当にご苦勞様でした。（川上記）

「J I D 30周年記念事業

『アメニティをこえたインテリア』

東京展のお知らせ」

先般より、会員の皆様への出品お願い等でご承知の通り、“アメニティをこえたインテリア”東京展を会員、賛助会員、協賛企業の多大の御協力に依り、下記の通り開催致します。

第1会場 場所 銀座ポケットパーク

会期 10月19日（木）～12月5日（火）

テーマブース 「アメニティをこえたインテリア」

1階の空間が、テーマに基づき五感が感じる生活環境の提案スペースとなっ

ています。

会員パネルブース 会員の新作がA1のパネルで、前期25枚、後期30枚で展示構成されます。

学生展ブース 参加23枚パネル模型、実物等で、前期と後期に分けて展示構成されます。

第2会場 場所 ダイコーライティングラボ

“インテリアパーク、プロのすすめるインテリアエレメント展”

会員約20名、インテリアエレメントを扱い、企業約40社で構成されます。会期11月20日（月）～11月26日（日）

第1会場のテーマブースは、メタ（超）アメニティをどう表現するかと言う事で人間の五感で感ずる（五感＝生命維持機能）インテリアを表現して生命発生的状況のステージをつくります。又、会員パネルはJ I D会員が日頃デザイナーとして活動の中からセレクトした作品を写真パネルにして展示し、学生展ブースは、インテリアデザイナーを目指す学生作品の中から優秀な作品を選び学生達に発表の場をつくと共にデザイナーとしてのステップになることを願っています。

第2会場の“インテリアパークプロのすすめるインテリアエレメント展”は多様なエレメントアイテムを展開し、その商材をデザイナーの目でセクションした「モノ」で構成します。又、J I Dスペシャルステージをもうけ、1988年度J I D協会賞をパネル展示の予定です。又、ライティングデモンストレーションとコンピューターシュミレーションを大型ディスプレイでリアルタイムに表現します。そして会場ディスプレイゾーニングでは、高さ3mのパネルと円柱を作り、パネルは壁装用、円柱はフェブリック用としてパネルと柱を有機的に配置します。

家具のゾーニングはオフィス用ハイテクチャー、食事用椅子、パーソナルチャーと3つのスペースで展示構成を致します。

第1会場、第2会場ともデザイナーが随所にかかわり、今迄の展覧会とは大きく変わったエキサイティングな、そしてダイナミックな展覧会が期待できます。又、第2会場インテリアエレメント展開催中は、国際家具見本市との協力の上で銀座ポケットパーク、芝浦ダイコーライティングラボ、晴海国際家具見本市とトライアングルに集

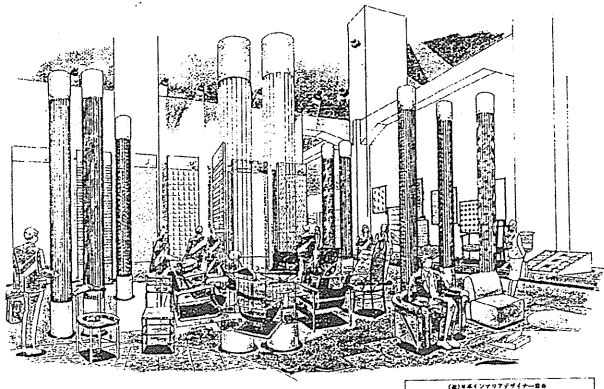
客を計ります。

ぜひご来場下さいますようお願い申し上げます。

展覧会委員会 委員長 中川 斉二

各担当委員一同

第2会場ディスプレイ パース



JID30記念事業基金募集その後の報告とお願い……

J I D ニュース 1989・7・8号に御礼をこめて掲載させて頂きましたが、その後引き続き暖かいご支援を頂戴しております。

賛助会員、名誉会員、正会員、準会員、関東事業支部、関西事業支部、中部事業支部、九州事業支部など全国的に巾ひろいご支援は本来の主旨であります会員の総意にもとずくものと、理事長を始め記念事業委員長など関係委員一同深く感謝しつつ、出来るかぎり多くの会員の方々のご参加を期待して、引き続きの基金のご支援をお願い致します。

その後のご報告

●賛助会員

2口(10万円) 榑竹中工務店(東京)

1口(5万円) 後藤建設榑

会員外企業

(3万円) 東和ハウス榑

●名誉会員

5口(5万円) 渡辺 力

正会員

5口(5万円) 竹中 幸雄

3口(3万円) 富田 卓司, 長岡 貞夫

2口(2万円) 市村 倅子, 鐘ヶ江茂則

1口(1万円) 寺原 芳彦 (敬称略・50音順)

以上、平成元年10月1日現在

総額 580,4万円となりました。

財務委員長 田中 聡行

お詫びと訂正

前号創立30周年を祝う式典・パーティーの記念講演会の記事で、講師・坂井直樹氏の紹介に校正ミスがあり、一部脱落していました。記事の一部を再録し、寄稿頂いた前原誠氏にお詫び致します。

<記念講演会>

演題 「デザインオリエンテッドから

マーケティングオリエンテッドへ」

—— マスプロダクトから

ミニプロダクトへ ——

講師 坂井 直樹氏

(ウォータースタジオ代表)

なお講演は同会館中ホールにおいて、午後4時～6時まで行われました。坂井直樹氏のプロフィールについては、J I D ニュース臨時号 —— 3をご覧ください。

今回の講演を受諾された坂井氏にお逢いする為、総務委員長の秋山氏、事務局長の野村氏と3人で南平台のウォータースタジオを訪ねたのは3月10日だった。スタジオは木立に囲まれた一軒家で、玄関の前にはかの「パオ」がとまっていた。私が氏にお逢いするのはこの時が初めてだったのだが、若々しい青年であり、打合せのテーブルが予想に反して無骨に材木を並べたのだったことが印象に残った。5月26日の講演は、その時感じた氏の資質が見事に表現されていたものだったと思う。

以下、前号11頁左上から19行目につづく。

1989・第2回理事会議事録

1. 日 時 平成元年8月1日(月) 13:30~16:30
2. 場 所 全郵政会館 会議室(BF)
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-20-6
3. 出席者 (別掲の通り)
4. 議 題

I. 議 案

- 第1号議案 1989年度の事業推進について
- 第2号議案 臨時理事会開催の件
- 第3号議案 協賛・後援名義承認の件
- 第4号議案 入退会承認の件
- 第5号議案 議事録署名人選任について

5. 議 事

はじめに議事につき、議長として渡辺理事長より説明あり、理事会進行につき協力が求められた。

これに先立ち、野村事務局長より「理事総数15名中出席理事15名で本理事会は成立した」旨定数報告がなされた。

第1号議案 1989年度の事業推進について

議長は、平成元年度第21回通常総会で承認された「平成元年度事業計画」および「J I D 30記念事業委員会第6回定例常任委員会」の配布資料に基づき、各事業の推進状況について担当理事(カッコ内)にその概要を質問形式によって求めた。(以下、発言順)

●選考事業(川上)

新年度の第1回選考委員会を早急に開いて新委員長を互選の上、新年度の事業を進める。

●総務事業(森谷)

総務、財務、組織3委員会の合同委員会を7月13日に開催し、「J I D 規定集」の見直しや基本的事項をテーマとして討議した。その結果、規定集については条文上の小修正と常識的な金額の見直しにとどめる。さらに大きな視点から見た見直しは、J I Dの基本問題に関わる事項となるため理事会での討議にゆだね、その後に対応したい。

これに対し、議長は、充分時間をかけて話合う必要がある問題なので、その討議方法につき理事会に諮った。結果、臨時理事会を開催する。その際、理事長提案の「J I Dの諸問題に対する理事会の考え

方」と合わせて討議することが決定された。

●教育事業(大野)

J I D 30事業の一環として取組んでいる「リゾート施設のインテリア」及び「シルバー社会のインテリア」の2テーマの研究委員会活動の推進状況について、資料に基づき説明した。研究レポート出版は平成2年3月以降の見込。9月16日に名古屋で行なう研究発表会に向け準備を進めている。これについての協力を要請する。

●交流事業1.(長岡)

デザインツアー・アジアイベント6ヶ国12名の来日が決定。旅行社2社から見積りをとり検討中。各事業支部のツアー担当者を決めて欲しい。予算の範囲内でおさめるよう計画を進めている。

●交流事業2.(白石)

全国規模の会員相互の交流について、3ヶ月に1回の割合で交流委員会を開催した。名古屋で開催するデザイナーズデイの参加数について最終チェックを行っている。会員、招待者、教育関係者等で現在参加者130名程度となっている。

●広報事業(泉)

J I D 30事業記念ポスターの顔写真等に脱落分があったことへのお詫びと、その処理についての説明があった。広報・出版関係の原稿については、〆切期限を厳守して欲しい。

J I D ニュースの発行について出版委員会が担当する場合、各事業支部および各委員会から毎月1回の報告を頂くようお願いするつもりである。

●特別事業

(イ) インテリアマップ委員会(長岡)

現在280社の申込みがある。事業支部および各位の協力を感謝したい。現在出版社と最後の詰めを行っているが、発行は11月の予定である。

(ロ) 資格制度対策委員会(中村)

インテリアプランナー特別講習は本年度限りとなるので、受講を幅広く呼びかけていく。

商業施設士制度については8月末日に細目が決り次第、実情に即して、情報提供など適切な対応を行なう予定。

(ハ) 共同事業委員会(三輪)

JAPAN TEX'90, IFFT'89等、協力依頼を受

けている。デザインイベントは本年度も積極的な協力をする。

IFFT'89(11月22日～26日)については、JID 30事業協賛とすることを決定した。

(ニ) 世界デザイン博等担当委員会(宇賀)

DESIGN EXPO'89 併催の「デザインギャラリー合同展」は、JCDA、JJDAと3団体共催で8月26日オープンする。JID出品者も関東、関西、中部の3支部会員からの共同出品が得られた。

(ハ) 記念事業委員会(川上)

7月10日に第6回定例常任委員会を開催、従来毎月2回行っていた定例会議を同日付で解消し、必要に応じて随時開催することとした。JIDニュース臨時号の発行についても、通常のJIDニュースに含めることとし、臨時号の発行は解消する。

JID30各事業の推進状況については、'89.7.20発行の記念事業委員会ニュースに記載した通りである。

以上が本部事業の報告である。

議長は、「本日は時間が限られているので支部事業の報告は、特別な問題のない支部は省略して欲しい」旨発言があり、関東、関西、九州の各支部については推進状況の報告は省略した。

●中部事業支部(宇賀)

中部事業支部長林寅正氏の辞任にともない後任に枋谷賢一氏を推挙したい旨の発言があった。

これに対し議長は、現支部長の残任期間について交替を認めてはどうかと提案し、理事会はこれを了承した。

議長は本部事業および支部事業について理事会に諮った。理事会はこれを了承した。

第2号議案 臨時理事会開催の件

議長は、かねてより懸題となっている「JIDの今後のあり方」について討議するため、特に臨時理事会を開催することを提案した。資料として「JIDの諸問題に対する理事会の考え方」の理事長案を提示した。

これについて理事会は討議の結果、賛成多数で臨時理事会を来る8月28日、東京で開催することを決定した。

第3号議案 協賛・後援名義承認の件

議長は次の5件について事務局長に説明を求めた。

事務局長は資料に基づき説明を行ない、実施または実施予定について説明した。

議長は本件について承認を諮った。

理事会は次の5件について、いずれも異議なく承認した。

○国際家具デザインフェア旭川'90 <後援>

主催 国際家具デザインフェア旭川'90
開催委員会

- 国際家具デザインコンペティション
- 国際家具展 '90. 7.3～8. 旭川
- 国際デザインシンポジウム '90. 7.5～6.

○'89オフィス環境展・インテリジェントビル'89 /シンポジウム <協賛>

主催 (社)日本能率協会
展示会 '89.11.8～11 東京
シンポジウム '89.11.9～10

○'89建築仕上フォーラム

「21世紀の家づくり・街づくり」 <協賛>
主催 建築仕上フォーラム組織委員会
('89.12.4～6 幕張)

○第28回『インターナショナル・ギフト・ショー 東京'89秋』 <協賛>

主催 ㈱ビジネスガイド社
('89.8.21～23 東京)

○第2回『インターナショナル・ギフト・ショー 西日本'89秋』 <協賛>

主催 ㈱ビジネスガイド社
('89.9.1～2 神戸)

第4号議案 入退会承認の件

議長は、下記15件について事務局長に内容の概要説明を求めた。事務局長は資料に基づき説明した。理事会はそれぞれの資料の審議を行った。結果、いずれも異議なく承認した。

○正会員の入会(9件)

氏 名	種別	保証推薦者
鈴木 豊	正会員	矢吹 宏・後藤 宣夫
今岡 登志	〃	田村 悠・宇賀 敏夫

中 川 成 人	正会員	渡辺 優・中川 千早
八 塚 正 基	〃	梶田 尚令・田中 博
柴 山 英 二	〃	飯田 公久・吉良ヒロノブ
宮 崎 桂	〃	岡本 賢三・榎田 均
木 谷 賢 治	〃	山崎 慶昭・中村 隆一
鈴 木 和 子	〃	長岡 貞夫・森谷 延周
東 伸 吉	〃	栢原 秀榮・山崎 晶

○準会員の入会（1件）

氏 名	種別	保証推薦者
小 池 豊 治	準会員	宮坂 博文

○賛助会員の入会（4件）

名 称	種別	紹介者
三和シャッター工業㈱	賛助会員	事務局扱い
八 千 代 化 工 ㈱	〃	中川 千早
㈱ か じ 新	〃	栢原 秀榮
㈱ エービーシー商会	〃	浅野 盛治

○準会員の退会（1件）

名 称	種別	
西 村 佳 子	準会員	

理事会はいずれも異議なく承認した。

第5号議案 議事録署名人選任について

議長は議事録署名人に富田卓司・長岡貞夫両理事の選任を提案し、承認を諮った。異議なく承認された。

(社)日本インテリアデザイナー協会1989・第2回理事会に関し、定款第28条の定めるところにもとづき、議事経過の要領および議決事項を記するため議長と議事録署名人がここに記名捺印する。

議 長 渡 辺 優 ㊟
議事録署名人 富 田 卓 司 ㊟
議事録署名人 長 岡 貞 夫 ㊟

1989第2回理事会出席者名

渡辺 優, 川上 信二, 泉 修二, 宇賀 敏夫 大野美代子, 川崎 浩, 白石 勝彦, 富田 卓司 中川 千年, 中村 圭介, 長岡 貞夫, 三輪 正弘 森谷 延周, 山内 睦平, 山品 元
理事総数15名中本人出席15名
監事 榎田 均
事務局長 野村禮七郎 (敬称略・順不同)

臨時理事会は8月28日(木)東京開催の予定。

6. 報告事項

① 「第14回IFI総会」出張報告

ノルウェー、ベルゲン市で開催されたIFI総会（5月23日、24日）及びデザイン会議（5月25日～27日）は、長岡貞夫、宮城由美子、矢作彩子が出席した。団長の長岡理事より出張報告の資料が配布され報告が行われた。議長より、報告会のほか、JID NEWS等で全会員に報告する方法を検討して欲しい旨要請があった。

② 「第3回日本インテリアテキスタイル作家展」の協力依頼

1990年2月1日より4日迄開催される「第9回JAPAN TEX'90」会場内で作家展を併催するので、前回同様全面的な協力を得たい旨、主催者の(社)日本インテリアファブリックス協会より打診がある。これについては昨年同様協力していきたい旨議長より発言された。

③ 機関誌「インテリアデザイン」110号中間報告

出版担当の泉理事より「創立30周年記念号」の主要進行状況につき、資料に基づき中間報告がなされた。これについて川崎理事より「各事業支部の発足についての経緯を明記すること」が要請された。また、議長より「校正段階のチェックについては出版委員会以外の人を交えて慎重に進めて欲しい」と要望があった。

④ 台湾高雄市インテリアデザイナー協会訪日団との交流

去る5月28日に来日した中華民国高雄市室内設計裝飾商業同業公会訪日団一行32名を川上副理事長、後藤国際委員長他が迎え東京で交流をはかった旨、野村事務局長から報告された。

⑤ 通産局名称及び所管部署の変更

平成元年7月1日付で従来の通産省東京通産産業局が関東通産産業局に名称変更になった。又、公益法人の所管部署が商工部商工課から同部通商課に変更された旨、事務局長より報告された。

⑥ 通産産業省貿易局検査デザイン行政室長更迭について

貿易局検査デザイン行政室長の更迭が7月1日付で行われた。新室長には小林健二氏が着任され、長尾梅太郎前室長は運輸省地域交通局地方交通事業対

策室長に転出した。以上事務局長より報告がなされた。

⑦ 関連団体、会長・理事長の異動について

JIDが所属している日本デザイン団体協議会の中、次の2団体の会長・理事長の交替があった旨、事務局長より報告。

(社)日本ジュウリーデザイナー協会

(平成元年5月20日付)

会長 山田礼子氏(新任)

金子俊二氏(前任)

(社)日本クラフトデザイン協会

(平成元年5月28日付)

理事長 佐藤信泰氏(新任)

馬場忠寛氏(前任)

⑧ 第14回吉田五十八賞受賞者

今回は、作品「東京サレジオ学園内ドンボスコ記念聖堂と小聖堂並びに各聖堂内一連の美術作品」が受賞した。この作品の美術製作部門で坂本和正氏(正会員関東)が吉田五十八賞の栄誉に輝いた。7月7日に受賞式があり、JIDからも川上副理事長が出席した。以上事務局長が報告、川上副理事長が補足した。

⑨ 記念事業基金応募状況について

7月28日現在の応募状況につき、事務局長から下記の内容報告がなされた。また川上記念事業委員長より協力に対し感謝の意が述べられた。

記

名誉, 正, 準会員	165名(264.4口)	264.4万円
賛助会員	37校社(53口)	265万円
会員外	3社	13万円
計		542.4万円

⑩ 昭和63年度以前未収会費

7月28日現在の未収会費は正会員24名100.8万円、準会員5名12万円計112.8万円となっている。2ヶ月前に比べ50%の納付があった。引続き未納者に早期納付を促進する旨、事務局長より報告があった。

⑪ 「平成元年度インテリアプランナー試験案内」頒布状況

7月17日締切ったが、JIDで取扱った部数は次の通り。

関東22, 関西53, 九州2, 中部1 計78部

⑫ 九州事業支部移転について

九州事業支部の事務局である会員森宣雄氏の事務所移転に伴ない、7月21日より事務局住所及び電話番号が次の通り変更された。

〒830

福岡県久留米市山川神代1-4-18

電話番号 0942-44-9049

⑬ 本部事務局夏季休暇スケジュール

8月14日(月), 15日(火), 16日(水)の3日間としたい旨事務局長より発言された。

⑭ 訃報

JID設立に尽力され、永年の間理事、監事の要職を歴任した名誉理事・岩瀬要三氏が去る5月28日逝去された。享年85才。協会より理事長、副理事長他多数が弔問した旨、事務局長より報告された。

謹んでご冥福をお祈りします。

⑮ その他

④ 通産省配布資料について

通産省検査デザイン行政室より次の資料が伝達された旨、事務局長より報告があった。

「デザイン政策の概要」

「手法さまざまデザイン振興策」昭和63年度版(発行)平成元年4月

通産省検査デザイン行政室

⑤ 名古屋市「デザイン都市宣言」

標記の件につき、6月30日付で名古屋市が「デザイン都市宣言」を採択した旨通知があった。

以上事務局長が報告、宇賀理事から補足説明がなされた。

⑥ リ・エダール氏を囲む会

スウェーデン来日した元IFI会長アグネッタ・リ・エダール氏を囲む会が7月31日東京において国際委員会主催で開かれた。

出席者は川上副理事長、白石、大野両理事のほか国際委員会の委員など15名であった。スウェーデンの現代インテリアデザインのスライドが上映されるなど日瑞親善交流をはかった。

以上川上副理事長より報告があった。

⑦ Who's Who インテリアデザイナー紳士録について

米国カルフォルニアに本部がある発行委員会か

ら JID 会員に名簿の掲載を依頼する通信文が届いている。その文面によると JID 理事長が特定の人選をしたかのように記されているが、そのような事実はない。この件の対応は個人の判断にまつこととなるが、JID としては事務局から抗議文を送ることとしたい。

以上議長から発言された。

㊦ JID ニュース 7・8 月号の発行について

7 月中旬発行の予定であったが、諸事情により遅れたため、6 月号は欠号となった。今後は記念事業臨時号もなくなるので定期発行に努力する。

以上事務局長から報告し、議長から補足説明があった。

㊧ 山品理事からの寄贈品について

去る 5 月 1 日付で事務局長を退任した山品理事から、次の品の寄贈があった旨事務局長から報告があった。

表示管付電子記録計算機 1 台

以上のうち、①、②、③、⑨、⑩、⑬、⑮㊦㊧について理事会はいづれも了承した。

理事会終了後、引続き 17 時より役員懇談会が開催された。

以 上

1989・臨時理事会議事録

1. 日 時 平成元年 8 月 28 日(月) 10:00~17:00

2. 場 所 全郵政会館 会議室 (B F)
東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-20-6

3. 出席者 (別掲の通り)

4. 議 題

第 1 号議案 JID の基本方針について

第 2 号議案 議事録署名人選任について

5. 議 事

はじめに議事につき、議長として渡辺理事長より説明あり、理事会進行につき協力が求められた。

これに先立ち野村事務局長より、「理事総数 15 名中出席理事 15 名全員で本理事会は成立した」旨定数報告がなされた。

第 1 号議案 JID の基本方針について

はじめに議長から、午前中は「JID の今後のあり方」に

ついて自由に討議したい旨発言があり、これに対し、出席理事より以下のような発言があった。

＜午前中の審議のポイント＞

1. 議案と定款との関連に矛盾しない。
2. JID の発足時及び法人化への経緯について。
3. JID は如何にあるべきかを論議すべきだ。

(組織・事業・財政が検討上のポイント)

4. JID は職能の確立から出発したが、いまでは時代の変化、会員の構成、外部からの期待など状況は変っている。視点の持ち方を新にして行かなければならない。なかでも「コミュニケーション」が大切である。

5. 本部と支部はどうあるべきか。

各々の機能の明確化の再検討

事業の推進方法の再検討

支部活動の活性化と財政面の再検討

関東事業支部の運営を本部と明確に分ける方向への検討

本部と支部との関係は今後の JID を考えていく上で最重要である。シュミレーションした上で改めて審議する(山内理事に私案を求めることになる)。

次に午後からは午前中の討議内容をふまえて、理事長が作成した「JID の諸問題に対する理事会の考え方」10 項目案について順次審議した。

＜午後の審議のポイント＞

1. 公益法人と管掌との関係。
2. 関連団体との結びつきを積極的に推進していく。
3. 資格制度は技術上の資格と理解する。
4. 会員拡充と入会時の推薦人の重要性について。
(この件は組織委員会に具体案の検討を付託する)
5. 支部活動の強化に対応する役員選出方法の再検討について。

以上の審議の後、議長より次のような発言があった。次回理事会で会員に配布する「JID の諸問題に対する理事会の考え方」の文案を最終的に諮ることとしたい。なお、検討事項のなかでも、私案及び付託事項に関しては、とくに山内理事、森谷理事の協力を得たい。

理事会はこれを了承した。

第 2 号議案 議事録署名人選任について

議長は議事録署名人に三輪正弘、森谷延周両理事の選任を提案し、承認を諮ったが異議なく承認された。

(社)日本インテリアデザイナー協会1989・臨時理事会に
関し、定款第28条の定めるところにもとづき、議事経
過の要領及び議決事項を記すため議長と議事録署名人
がここに記名捺印する。

議長 渡 辺 優 ㊤

議事録署名人 三 輪 正 弘 ㊤

議事録署名人 森 谷 延 周 ㊤

1989・臨時理事会出席者名

渡辺 優, 川上 信二, 泉 修二, 宇賀 敏夫 大野美代子, 川崎 浩, 白石 勝彦, 富田 卓司 中川 千年, 中村 圭介, 長岡 貞夫, 三輪 正弘 森谷 延周, 山内 陸平, 山品 元
理事総数15名中理事15名(本人15名出席)
監事 榎田 均
事務局長 野村禮七郎 (敬称略・順不同)

次回理事会は9月29日(金)、東京開催の予定。

「憲章」を改め「JIDの信条」へ、さら にJIDの諸問題に対する理事会の 考え方

JIDが30周年を迎えた今日、三本柱ともいわれる組織
・事業・財政面は歳月と共に大きく変化しました。30周
年という大きな節目を迎え、つぎへのステップのために、
JIDの基本的な方針につながる「JIDとは」について様
々な角度から論議していくことが必要です。以下は、標
題に対する検討経過です。

「JIDとは」の論議は、去る昭和62年12月の渡辺理事
長提案による「JIDの理念」及び総務委員会による「JID
の規定集」の整備への提案と関連しながら推移しました。

その間、理事会・理事による小委員会・総務委員会・
正副理事長＋総務委員会での論議を経て、平成元年3月
の理事会討議により、現在の「憲章」(別掲1)を改め
「JIDの信条」(別掲2)とすることに決定しました。

検討段階でのポイントは、現在の「憲章」が今日的で
ないこと、「JIDの理念」とすることへの意味合い、さら
に、定款や会員規定との整合性などでした。

この「JIDの信条」は「協会内」を対象とし、文案の
構成にあたっては、JIDの組織・使命・未来の意味合い
の表現に努めた結果です。

一方、「協会外」の場に対しては、現在の「JID案内」
の冒頭にある「JIDとは」(別掲3)の文面を活用する
ことに決まりました。

さらに、この「JIDの信条」を理解していくために、
合わせて渡辺理事長より、「JIDの諸問題に対する理事
会の考え方」(案)が理事会に提示されました。

理事会はこれを受けて、この件に絞って、去る8月28
日、全理事出席のもとで丸1日を費やした臨時理事会を
開催しました。JIDの設立時から今日の時点、さらに将
来に向けた協会のあり方など大変活発な討議となりました。
その結果、種々の検討課題はあるものの、この機会
に一つの区切をつけることを申し合わせ散会しました。

そして、9月29日の'89年第3回理事会及び在京理事
小委員会などによって最終的に整理したものが、本号に
差し込みの(別紙)色刷りニュースです。ぜひ、ご一読
下さい。

書き足りない点や、見落している点もあるかと思いま
す。さらに会員各位のご意見を得て、JIDの今後の歩み
が、よりよい方向に向かうことを願っております。

これまでの経緯を総務委員会から、ご報告させていた
だきました。 <総務部会担当理事・森谷延周>

(別掲1) 旧「憲章」

「憲章」

- 一. 会員の資格 本会の正会員は、インテリアデザ
イン(室内設計)及びプロダクト
デザイン(量産品設計)の専門家
であって、委託者の信頼にこたえ
るに十分な資質、才能、経験、人
格を保有するものである。
- 一. 会員の職能 本会の正会員は、常に人間の生活
行動を深く究明し、委託された業
務を統括し、デザイン活動を通じ
てその意図する物を創作し、具体
化することによって委託者の要望
にこたえ、産業の発展と生活文化
の向上に寄与することを職能とす
る。
- 一. 会員の報酬 本会の正会員は、委託者の信頼と
責任を果たすにふさわしい報酬を
委託者より受ける。従って委託さ

	れた業務について委託者以外からいかなる報酬も受けてはならない。
一、会員の職責	本会の正会員は、インテリアデザインの業務を行うにあたって施工業者の正当な立場を擁護し、公平に行動し、適切に指導しなければならない。
一、会員の責務	本会の正会員の業務は、常に公共の福祉に反することなく、人間生活の進歩と調和に寄与するものでなければならない。また、誇張した自己宣伝的な行為をしてはならない。

知識の交流をはかり、社会に対してはデザインの認識を深めるための活動を続けて参りました。

また、我が国の国際的な立場の変化にともなって、国際交流の機会もふえ、次第に主導的な役割を担うようになりつつあります。

よりよい生活環境を求める気運の高まりと共に、当協会に対する期待が強まり、それにこたえなければならない責務も大きくなりましたが、組織の充実をはかり一層積極的な活動を進めるよう努力しております。

委員会の動き

（別掲2）新「JIDの信条」 一対内向けー

「JIDの信条」

JIDは、インテリアデザイナーとその分野に関連する人たちによる組織です。

私たちは、それぞれの分野において、よりよい生活環境を創りだすことにより、社会への貢献を目指します。

また、国際的な交流を計り、人類の明るい未来を築くように努めます。

選考委員会報告

日 時 8月23日 16:00~18:00

出席者 川上信二・渡辺優・泉修二・光藤俊夫

（他は委任状）

議 題 1) 新委員長の選出

出席者全員の推薦により光藤俊夫を選出。

2) 日本デザイン大賞の推薦候補について

選考委員諸氏からの提案は山品元委員の当協会における『“協会賞”の功績と活動』

が寄せられたのみで他は皆無。ただしそれも決定には至らず次回に持ち越す。

日 時 9月20日 18:30~20:00

出席者 渡辺優・川上信二・中村圭介・白石勝彦・光藤俊夫（他は委任状）

議 題 1) 日本デザイン大賞の推薦について

種々討議の末『㈱インテリアセンター』

（旭川）の業績と活動を当協会よりの推薦として決定（推薦文作成・白石委員担当）。

2) 野口賞公募の実施

従来通りの方式で実施を決定。

（選考委員長 光藤俊夫記）

（別掲3）現「JIDとは」 一対外向けー

日本のデザイン黎明期ともいえる1958年に、室内設計の分野で活躍し始めたデザイナーが集って結成した日本室内設計家協会は、1969年に社団法人日本インテリアデザイナー協会と改称、法人格を取得し、日本のインテリアデザイナーの代表的な組織として、社会的な位置づけが明確なものとなりました。

会員はインテリアデザイン及びインテリアに関連する製品デザインの専門家を中心とし、インテリアデザインの教育あるいは研究に携わる人たちを含めた組織で、内部的には会員相互の意識の向上、技術・

交流委員会報告

交流委員会 山本棟子

フォーラム「商空間のプロデュース——何故今計画ではなく企画なのか」主催（社）新日本建築家協会関東甲信越支部後援，当協会交流委員会が7月28日（金）建築家会館1Fホールで開かれました。初めての外部団体とのジョイントでしたが，多数ご出席下さり盛会でした。（JIA 50名，JID 15名，計65名）ご出席いただいた中川帛子氏に感想文を書いていただきました。

フォーラム「商空間と企画」に出席して

中川帛子

商空間や商業建築へのかかわりは，設計者として参加してもユーザーである客として参加しても興味深いものがあります。ほかの建築を作る過程ではクライアントの意志が大きくかかわっているのが常ですが，商建築の場面では設計者の自分が客の立場でクライアントを説得しているのに気付くことがあります。仕掛ける側と仕掛けられる側の攻防が自分の中にあります。物を売るだけの器だった商空間が不特定多数の人々への強力な情報発信基地になれることを企業側も受け手側も期待し始めた結果であると思います。“今なぜ商空間と企画か／＼” 皆が一つだけの答では満足しなくなっているからに外ならないのでは。

新建築家協会がタイミングよく催されたこのフォーラムで，建築家が今商空間をどうとらえ，何を仕掛けようとしているのかを生で聞きたいと思って出席しました。初回（…と思うのですが）ということもあってか講演は商空間と呼ばれる建築を現象として時間を追って理論的に述べられ，時間切れとなり，なぜ企画かというテーマにいま一步到らなかったことは残念でした。最近の現象として，企業側にも設計の側にも属さないで企画やアイデアを売ることをビジネスとする専門家集団がインシァティブをとって完成している空間や建物が出現し，企業も強い関心を持っています。この周辺の話なども聞ければと思います。

「平成2年度インテリアプランナー講習」ご案内

JID資格対策委員会

委員長 中村圭介

平成2年度のインテリアプランナーの講習会が開催されます。講習による特別措置は今回最後となりますので，受講資格のある方はこの機会に受講し資格を得られるようご案内いたします。

詳しくは財団法人建築技術教育普及センター発行の総合案内書（一部1,490円郵送料とも）をご覧ください。

概要は次の通りです。

記

1. 申込書頒布 平成元年10月2日～11月15日
2. 申込受付 平成元年11月1日～11月15日
3. 受講料 41,200円（消費税込）
4. 講習期間 平成2年4月16日～6月13日
全国8都市で合計32回（各回3日間）
5. 講習地 札幌・仙台・東京・名古屋・金沢・大阪・広島・福岡
6. 登録料 10,300円（消費税込）

なお，実務経験には，インテリアエレメントの設計も対象となるほか，研究・実技指導（教育）なども含まれます。

デザインコンペ2題

国際家具デザインフェア旭川'90

- 主 催 国際家具デザインフェア旭川'90
開催委員会
- 後 援 通産省，外務省，中小企業庁，JID他
- 募集テーマ 「木製家具」
1988年1月以降に商品化または発表された木製家具，及び未発表の木製家具
- 応募資格 個人，グループ，企業いづれも可
- 応募期間 1989年7月1日～1990年1月31日
- 応募方法 応募作品のカラースライド（24mm×36mm）を応募用紙と同封のうえ郵送
- 応募登録料 1点または1シリーズ5,000円

- 入賞 グランプリ（1点・賞金300万円）
金賞（1点・賞金100万円）
銀賞（2点・賞金50万円）
銅賞（3点・賞金30万円）
特別賞（1点・賞金50万円）
- 審査員 喜多俊之氏他4名
なお、募集要項はJID事務局にありますのでお申し出下さい。

車いすデザインコンペ

- 主催 車いすデザインコンペ委員会
 - 後援 世界デザイン博覧会協会・愛知県他
 - 募集内容 車いす、電動いす、歩行器、座位保持いす
 - 作品規定 B4サイズまたはB2サイズ、用紙3枚以内。概略スケッチと詳細図または組立図・構造図。必要に応じて模型写真添付。
 - 応募資格 個人またはグループでプロ、アマは問わない。企業名の応募は不可。
 - 応募期間 1989年8月10日～11月20日
 - 応募方法 応募用紙に所定の事項を記入のうえ、作品（3枚以内）と一緒に郵送または持参
 - 入賞 グランプリ（1点・賞金100万円）
金賞（1点・賞金20万円）
銀賞（2点・賞金10万円）
銅賞（3点・賞金3万円）
夢おこし賞（2点・賞金10万円）
- 募集要項、用紙はJID事務局にあります。

て」と題して、ライアル・ワトソン氏による基調講演に移った。18時30分からはホテル・ナゴヤキャッスル天守の間においてレセプションが行なわれ、4,000名近い参集者で賑わった。翌10月19日からは30にのぼる分科会が140余名のパネリストを招いて行なわれ、参加者は国外より約800名を含め3,700名を数え、21日夕方の閉会式、ひきつゞき名古屋城広場におけるフェアウエルパーティで幕を閉じた。

第16回 ICSID 総会開催

国際デザイン会議のイベントを受けて第16回 ICSID 総会が10月22日、23日の両日、白鳥センチュリープラザで開催された。

（社）国際家具産業振興会

’89国際家具見本市（IFFT）特別イベント「フォールディング・ファニチュア」展を含む

会期 11月22日（木）～26日（月） 9：00～17：00
会場 晴海東京国際見本市会場
出品内容 家庭用家具、オフィス用家具、リゾート施設向家具、店舗向家具、屋外用家具他

間近に迫った90年代への市場ニーズに応える世界各国の優れた製品が展示されており、新しい分野として期待されるコントラクト・ファニシングズ関係の製品を集めたパビリオンも新設されています。同時に開催される「フォールディング・ファニチュア展」～折りたたみ家具大集合～は、JID30事業として共同事業委員会が全面的に協力、JID会員も出品しています。同じ時期にJIDの東京展が浜松町のダイコーライティングラボで開催中です。両展併せてご覧下さい。

関連団体の動き

国際デザイン会議、成巧裡に行なわれる。

10月17日夜の世界デザイン博、白鳥センチュリープラザでのウエルカムパーティにはじまり18日14時より、皇太子殿下の臨席のもとイベントホールにおいて「私たちの新風景 ― 情報化時代のデザイン」をテーマに盛大に行なわれた。

ひきつゞき「環境という自然法則の重要性について」

国際デザイン交流協会

国際デザイン展’89開催

会期 11月17日（金）～26日（月） 10：00～18：00
会場 インテックス大阪「南港」1号館
本展は、イメージ・ワード“ハロー夢・感性”のもと、第4回国際デザイン・コンペティション入賞作品、第4回国際デザイン・アワード受賞者の業績展示をはじめ、協会企画展示、企業・団体・デザイナーの出展等で構成されるすべてのデザイン分野を対象としたユ

ニークなデザイン・イベントです。

- 国際デザイン展'89の入場券が本部事務局に若干あります。先着順で無料配布しますので、ご希望の方は本部事務局へお申込み下さい。

☐ 日本インテリアファブリックス協会

インテリアファッションセミナー開催

主 催 日本インテリアファブリックス協会取
引近代化委員会

協 賛 日本インテリアデザイナー協会(予定)

日 時 12月12日(火) 14:00~17:00

場 所 東京都渋谷区神宮前2-3-16
建築家会館 1階会議室

定 員 70名(申込先着順)

会 費 N I F, J I D 会員 3,000 円

演 題 1. 女性誌の現場からみた女性像
講師 (株)講談社
ソフィア編集長 笹川 隆氏

2. インテリアファッションについて
講師 (株)西武百貨店
専務取締役 水野 誠一氏

会員の消息

◇ 山 本 信

17日から名古屋のデザイン博に札幌から34名ツアーを組み行って来ました。名古屋ではデザインの仲間と朝食会、夕食会など出来ました。

インテリア集会も北海道では20~30名となりました。支部は作らないようですが近く集まってみます。

昨日はインテリア産業協会支部のビジネス研究会があり40名が勉強会をしました。三菱レイヨンの宇野保夫さんが講師を勤めました。

一昨日は北大平洋国際フォーラムがあり北朝鮮と韓国のパネラーが並び時代の動きを感じました。

(関東) 山本 信

◇ 中 田 重 克

暑中お見舞い申し上げます。

大変ご無沙汰を致しておりますが、お元気でお過ごしのことと存じます。

さて私、このたび長年住み馴れた東京を離れ、海の近くの静かな田舎町に移り住むことに致しました。新居はまだ完成しておりませんが、とりあえず年内中の仮住所をお知らせ致します。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

1989年 8 月

仮住所/〒289-06

千葉県香取郡東床町笹川一ろー1106

電 話/東京秘書室 03-469-3959

(関東) 中田 重克

◇ 岩 瀬 と く

残暑お見舞い申し上げます。

さて、岩瀬葬儀の折には一方ならぬご厚情を賜り、深く御礼申し上げます。月日は流れる様に過ぎ、早くも三回目の忌日も済ませました。

先日は協会ニュースをお送り頂き有難うございました。永い間のよき知己であられた大泉様の追悼文に胸を熱くして読ませて頂きました。大の努力家であり、余り表立つことを好まなかった故人でしたが、知って下さる方もあると意を強く致しました。子供たちのためにも父親としての仕事を知って貰えました。

おくれbaseながら一言御礼を申し上げます。

尚協会一層の御発展を祈ってやみません。かしこ

岩瀬 とく (名誉会員 故岩瀬要三氏夫人)

◇ 見 野 富 子

残暑お見舞い申し上げます。

本日はインテリアデザイナー協会月報をお送り下さいましてありがとうございました。

仙石先生の追悼のことばをのせていただきまして故人もどんなにか喜んでいることと存じます。

早速に仏前に供えさせていただきました。

申し遅れましたが、健治死去の際には御丁寧なお手紙とお供えをいただきましたこと厚く御礼申し上げます。生前中はいろいろとお世話になりましたこと深く感謝申し上げます。

協会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

かしこ

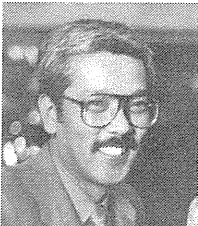
見野 富子 (関西 故見野健治氏夫人)

新入会員の紹介

●新入会員

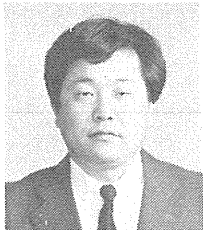
(正 会 員)

会 員 名 及 号 番		住 所 及 電 話
すず き ゆたか 鈴木 豊 (会員番号 788) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	株式会社 ザ・デザイン・スタジオ 東京都千代田区神田神保町1-3-5 富山房ビル 〒101 TEL 03-293-5810 FAX 03-293-5819 神奈川県川崎市多摩区栗谷1-4-5 〒214 TEL 044-955-2325 矢 吹 宏 ・ 後 藤 宣 夫
いま おか と し 今岡 登志 (会員番号 789) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	IMPAD 三重県四日市市中川原3丁目1-26 〒510 TEL 0593-51-9853 三重県四日市市中川原3丁目1-26 〒510 TEL 0593-51-9853 田 村 悠 ・ 宇 賀 敏 夫
なか がわ しげ と 中川 成人 (会員番号 790) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	株式会社 アイ・シー・エス 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-20-1 パークアベニューアパートメント204号 〒151 TEL 03-497-9577 FAX 03-497-9570 東京都新宿区早稲田2-9-11 タケハイム505号 〒169 TEL 03-208-4004 渡 辺 優 ・ 中 川 千 早
やつ づか まき き 八塚 正基 (会員番号 791) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	新都市リビング株式会社 東京都千代田区内幸町1-3-6 新日比谷ビル 〒100 TEL 03-501-6751 FAX 03-501-6754 神奈川県横浜市港北区大豆戸町492-1 A-404 〒222 TEL 045-432-5261 梶 田 尚 令 ・ 田 中 博

しば やま えい じ 柴 山 英 二 (会員番号 792) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	大装 株式会社 東京都港区新橋 6-1-11 秀和御成門ビル 3 F 〒105 TEL 03-431-6131 東京都杉並区久我山 5-17-18 〒168 TEL 03-331-3809 飯 田 公 久 ・ 吉 良 ヒロノブ
みや ざき けい 桂 宮 崎 桂 (会員番号 793) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	株式会社 プラント建築デザイン事務所 東京都武蔵野市吉祥寺本町 1-30-7-108 〒180 TEL 0422-21-1340 FAX 0422-21-1340 東京都武蔵野市吉祥寺東町 1-23-3 〒180 TEL 0422-21-6610 岡 本 賢 三 ・ 榎 田 均
き たに けん じ 木 谷 賢 治 (会員番号 794) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	株式会社 木谷デザイン事務所 大阪市中央区淡路町 4 丁目 4-5 シティポール 3 F 〒541 TEL 06-232-1641 FAX 06-232-1642 大阪府豊中市西緑丘 2-5-5 〒560 TEL 06-856-0622 山 崎 慶 昭 ・ 中 村 隆 一
すず き かず こ 鈴 木 和 子 (会員番号 795) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	株式会社 双葉商会 東京都練馬区上石神井 4-1-13 〒177 TEL 03-929-6660 FAX 03-920-1573 東京都世田谷区梅丘 3-2-1 〒154 TEL 03-425-4213 長 岡 貞 夫 ・ 森 谷 延 周
あずま のお よし 吉 東 伸 吉 (会員番号 796) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	株式会社 大丸 百貨店事業本部 大阪市中央区西心斎橋 1-4-5 〒542 TEL 06-281-9028 FAX 06-245-0833 大阪府茨木市山手台 6 丁目 19-8 〒567 TEL 0726-49-3571 栢 原 秀 榮 ・ 山 崎 晶

●新入会員

(準 会 員)

会 員 名 及 号 番		住 所 及 電 話
こ いけ とよ はる 小 池 豊 治 (会員番号B-165) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	有限会社 アート企画 山梨県甲府市羽黒町 1545-1 〒400 TEL 0552-52-5070 FAX 0552-52-5070 山梨県甲府市山宮町 3285-27 〒400 TEL 0552-51-1037 宮 坂 博 文

●新入会員

(賛 助 会 員)

会 員 名		住 所 , 電 話 及 ご 担 当 者
三和シャッター工業 株 式 会 社	住 所	東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビル 44 F
	担 当 者	〒163 TEL 03-346-3199 (直)
	担 紹 介 者	FAX 03-346-8963
		代表取締役 高山 俊隆
		住宅建材営業部長 増村 昭道
八 千 代 化 工 株 式 会 社	住 所	本社 石川県石川郡野々市町矢作 3-139
	担 当 者	東京営業所 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-20-1-204
	担 紹 介 者	〒151 TEL 03-497-9558
		FAX 03-497-9570
		東京営業所 所長代理 黒川 潔
		中 川 千 早
株 式 会 社 か じ 新	住 所	大阪府泉佐野市湊 2-6-12
	担 当 者	〒598 TEL 0724-63-1010
	担 紹 介 者	FAX 0724-64-1401
		代表取締役 鍛冶谷 一
		栢 原 秀 榮
株 式 会 社 エ ー ビ ー シ ー 商 会	住 所	東京都千代田区永田町 2-12-14
	担 当 者	〒100 TEL 03-507-7132
	担 紹 介 者	FAX 03-581-4944
		営業開発部主任 幸田 全弘
		浅 野 盛 治

会員の異動

●会員の異動

(正 会 員)

会 員 名	異 動 事 項	新
中 田 重 克 (関東 P. 116)	自 宅 住 所	千葉県香取郡東庄町笹川一ろー1106 〒289-06
福 島 保 信 (関東 P. 126)	事 務 所 ・ 自 宅 住 所	東京都新宿区左門町12 〒160 TEL 03-351-1944 FAX 03-351-1790
深 谷 明 恵 (関東 P. 167)	事 務 所 ・ 自 宅 住 所	Stand Point 千葉県習志野市津田沼2-12-10 グランドメゾン津田沼402 〒275 TEL 0474-73-5122 FAX 0474-77-8879
伊 東 和 彦 (関東 P. 55)	自 宅 住 所	東京都渋谷区鉢山町2-6 〒150 TEL 03-463-7763
入 江 すぎ枝 (関東 P. 159)	勤 務 先	退 職
塩 田 一 夫 (関東 P. 95)	事 務 所 移 転	東京都港区南青山5-12-3 小田急南青山マンション603 〒107 TEL 03-498-6177 FAX 03-498-6176
南 等 (関東 P. 137)	勤 務 先 事 務 所 開 設	退 職 有限会社 エム インテリア研究室 神奈川県横浜市戸塚区平戸3-58-15-306 〒244 TEL・FAX 045-825-1904

●会員の異動

(賛 助 会 員)

会 員 名	異 動 事 項	新
株式会社 ダ ス キ ン (賛助 P. 300)	担 当 者 担 当 者 住 所	愛の店事業本部 商品開発部 澤 山 裕 恵 大阪市北区中津1丁目6番28号 ホーコクビル4F

東京ナイキ工業 株式会社 (賛助 P. 303)	社 名 変 更	株式会社 ナイキ東京
立川ブラインド 工業株式会社 (賛助 P. 300)	担当者部署変更	販促部 部長 石 原 弘 道
松 下 電 工 株式会社 (賛助 P. 311)	担当者部署変更	デザイン部 大 堀 治 宣

名簿の訂正

平成元年・二年版の会員名簿記載事項に一部誤りがありました。下記の通り訂正頂きたくお詫び方々お願いいたします。

会 員 名	支部・種別	ページ	訂正項目	誤	正
川 野 明	関東・正会員	78	事務所住所	神奈川県藤沢市本鵠沼 5-12-3	神奈川県藤沢市本鵠沼 2-3-23
杉 本 真 二 郎	“ ”	100	TEL・FAX 番 号	TEL 03-401-1126 FAX 03-402-7026	TEL 03-402-7026 FAX 03-401-1126
馬 場 敏	“ ”	新入会員 (準会員より)	事 務 所	スタジオ・ <u>ナイト</u>	スタジオ・ <u>ナトア</u>
山 崎 晶	関西・ “	217	勤務先TEL	06-252-0642	06-281-4870
佐 藤 孝 男	中部・ “	250	自宅TEL	0568-79-3179	0568-79-3195
(株) 内 田 洋 行	賛助会員	288	担当部署名	オフィスデザイン研究所	環境デザイン研究所
(株) 高 島 屋	“	299	担当部署名 担当者役職名	建装事業部 副設計室長	建装事業本部 設計副室長

(敬称略・順不同)

寄贈図書

	書（誌）名	月 日	備 考
(社)インテリア産業協会	「インテリア・ビジネス・ウォッチング」 —変化してきた企業経営表現—	9. 29	
(社)インテリア産業協会	「インテリア・トレンド・ウォッチング」 —豊かさの時代のライフ・スタイル—	9. 29	
柏 書 房 (株)	サイン コミュニケーション	10. 4	
丸 善 (株)	手 — もうひとつの生活	10. 18	
(財) 経 済 調 査 会	積算資料ポケット版 インテリア編（1990年版）	10. 2	

事務局短信

- 員改選の年です。日常のお仕事でお忙しい毎日と思いますが、正会員各位の積極的なご協力をお願いいたします。
- ① 7・8月号は真夏の盛りでしたが早や紅葉の季節となりました。JID30事業も中盤を超え、いよいよ終盤を迎えました。展覧会のながれも福岡展、名古屋展、大阪展が終り、19日から東京展が始まりました。事務局も目の廻る忙しさでしたが、入局間もない私にとって短い間に多くの会員の方々とお会いすることが出来、大変幸せでした。また、記念事業を企画し実施された各事業の委員の方々のご労苦と熱意に感銘をうけました。
- ② ニュースの1面でもお知らせしましたが、今年は役員改選の年です。日常のお仕事でお忙しい毎日と思いますが、正会員各位の積極的なご協力をお願いいたします。
- ③ インテリアマップ委員会が企画・監修の「最新版インテリアマップ主要都市編」がいよいよ11月20日に発行される予定です。ご期待下さい。
- ④ 10月より会計年度下期を迎えました。過年度（昭和63年度）会費未納の方が若干います。また、本年度は特別事業等による事業費が必要ですので今年度会費未納の方も至急納入方お願いいたします。
- ⑤ 国際デザイン展'89の入場券ご希望の方は本部事務局にご連絡下さい。詳細は「関連団体の動き」をお読み下さい。

1989/9・10

頒価 300 円（送料共）

平成元年11月1日発行

（日本インテリアデザイナー協会月報1989年通巻第158号）

発行・社団法人 日本インテリアデザイナー協会事務局

印刷所・（社）コロニー印刷

東京都渋谷区神宮前2-3-16

振替・東京 8-76389

☎ 03-403-3649

「J I Dの諸問題に対する理事会の考え方」

1. 社団法人としての立場

J I Dは、日本のインテリアデザインの分野における代表的な団体として、1969年に法人格を得ました。

社団法人は、公共の利益に関することを目的とする公益法人です。国が認めた団体ですから、私たちの活動には、公的な役割があります。

J I Dは、同じ法人格を持つ他の5つのデザイナー団体と共に、通商産業省貿易局検査デザイン行政室の管掌下にあります。従って、社団法人の立場を認識して、官庁との連携、協力に努めております。

また国の叙勲褒章制度などへの対応も、役割のひとつです。これまでに5人の会員が叙勲褒章を受けられました。

2. デザイン諸団体との協力

現在、通商産業省の検査デザイン行政室が管掌するデザイナー団体は、次の6つの協会です。

- (社) 日本インテリアデザイナー協会 (J I D)
- (社) 日本インダストリアルデザイナー協会 (J I D A)
- (社) 日本クラフトデザイン協会 (J C D A)
- (社) 日本パッケージデザイン協会 (J P D A)
- (社) 日本グラフィックデザイナー協会 (J A G D A)
- (社) 日本ジュエリーデザイナー協会 (J I D A)

この他の法人格を得ていない団体や、管掌する省庁の部署の異なる関連団体があります。

それぞれの領域や立場は異っても、相携えて日本のデザイン界の健全な発展を計ることが大切であると考えています。とくに上記6団体で構成する日本デザイン団体協議会では、情報や意見の交換が適時行なわれております。1989年秋、名古屋の世界デザイン博会場内で開かれた3団体合同展のような共同事業も、今後は一層活発に進められることが望まれており、各デザイナー団体との協力態勢をさらに強化して行きたいと考えます。

これらのデザイナー団体と密接な関係にあって、その中核に位置する(財)日本産業デザイン振興会(J I D P O)には、各団体の長が、評議員等の立場で運営に参画しています。また(社)商業施設技術団体連合会には、構成メンバーとして参加しています。

この他全国各地で活動するデザイナー団体などにも、J I Dが協力する機会は少なくありません。

3. 産業界との連携

J I D会員が関わっている産業領域は広範に亘ります。もっとも大きな関わりを持つインテリア産業界との結びつきを強めて行くことは、会員のデザイン活動の推進上、不可欠のことと考えています。賛助会員という位置づけで関連企業の積極的な参加を得る必要から、呼称も法人会員または企業会員と、より明確にし、デザインの専門家集団と産業界の一体化した活動を期待する声も強まってきました。

同時に、J I Dが産業界の活動を前向きに捉え、連携して行くことも重要であると考えております。こうした観点から、インテリア産業界の主要な組織である(社)インテリア産業協会には、J I Dが団体会員として参加し、J I Dの代表者が役員としてその運営に参画しています。一方、(財)生活用品振興センター等にも

役員として参画しており、緊密に協力し合う態勢にあります。

また、(社) 国際家具産業振興会、(社) ニューオフィス推進協議会、日本インテリアファブリックス協会、壁装材料協会等の諸団体とも緊密な関係にあつて、各種事業への協賛や実務的な協力を行なうことが少なくありません。

4. 国際交流への取組み

インテリアデザイナー団体の国際的な連合組織であるTHE INTERNATIONAL FEDERATION OF INTERIOR ARCHITECTS/INTERIOR DESIGNERS (略称 I F I) に、1977年アジアで初めて加盟し、以来隔年の大会には代表が欠かさず出席して、J I Dの立場から発言して来しました。(I F Iを日本語では、国際インテリアデザイナー団体連合と呼ぶことにしています。) 特筆すべきこととして、I F Iの会員作品集『世界のインテリア』を、1987年、J I Dが中心となって刊行したことは、ご存知の通りです。

また世界各国の団体やデザイナーとの交流も、年を追ひ活発になりました。特にアジア各国との交流、連携を一層強めたいと考えており、30周年記念事業で、アジア6ヵ国から12名の代表者を招請し、各地で交流の成果を上げたのもその一環です。これによって、より密接な連携が確認されました。

このほか、1974年以降、海外からのデザイン専門家の研修事業にも力を入れてきました。これは国際協力事業団(J I C A)とJ I D P Oの委託を受け、進められてきたものですが、J I Dが受持った研修員は、1988年度までに14ヵ国、28名にも及びます。

さらに隔年、大阪で開催される、国際デザインコンペなどの実施団体(財) 国際デザイン交流協会には、理事や委員の立場で参画、協力しています。

5. インテリア関連資格制度への対応

インテリアデザインは、様々な分野と関わりがあり、関連する公的な資格も少なくありません。そのうち、もっとも関係の深いものとして、通産大臣認定によるインテリア・コーディネーターと、建設大臣認定によるインテリア・プランナーがあります。

また通産・建設両省が共管する商業施設士の資格制度の実施も決まりました。

これらの制度の実施に伴って、インテリアデザイナーの位置づけはどうなるのかという疑問も生じてきたようです。

この疑問に対しては、これらの資格はあくまで技術上のことと理解し、創造性などより広い内容でとらえなければならないデザイナーの資質と、同じ次元で比較されるものではないというのが、J I Dとしての考え方です。

従って、インテリアデザイナーが、職務上必要な技術上の知識や能力を裏付けるものとして、これらの資格を得ることは、個々の会員の仕事の内容によっては望ましいことと考えており、この3つの資格制度の推進に協力しています。しかしデザイナーとしての感性などに、優劣をつけるような内容は好ましくないなど、一貫してJ I Dの立場からの発言に努めてきました。

6. 組織の拡充と質的向上

1985年、日本室内設計家協会として創立されたときの会員数は79名でした。30年後の現在は正会員だけでも600名を超える規模になりました。

社団法人としては、定款に基づく範囲で、門戸を開かなければなりません。同時に組織の活性化と、それを支える財政の上から、会員数の拡充を計る必要があります。これはJ I Dの目的遂行のための最重要事の一つと考えます。しかし、単に会員数の増加策のみでは十分ではありません。J I Dの質的向上にとってプ

ラスの人材かどうかの判断のよりどころについては、これまでも基準がありましたが、入会の応諾には推薦者の役割を、より明確にして、重視する方向でさらに改善を検討中です。またインテリアデザインの分野で、優れた実績を持ちながら、未加入の方たちに対する入会の勧誘を一層積極的に進めることが、組織の拡充と質的向上の両面にとって重要なことと考えています。

さらに事業の活性化の上から、組織の根本的な見直しを考える時期にあり、一つの考え方として支部の増設も検討中です。その実施によっては、より広い範囲からの入会が期待されます。

7. 事業の活性化

J I Dの事業活動は、会員の自発的な参加意識に基づくもので、事業の活性化の推進のためには、全会員の協力が必要です。今回の30周年記念の諸事業では、多くの会員の積極的な参加が得られました。この気運を次年度以降にもぜひ持続させたいと思います。

全国的な事業展開と、その活性化を進めるために、これまでの本部主導型から、事業支部中心に転換するのがよいという意向が理事会では強まってきました。東京の場合も例外ではなく、事業の多くは関東事業支部で進めることにしようという考え方です。

同時に、これまでの4つの支部以外にも、支部を設立することにより、より広範な活動が期待されます。

現在、この方向を目指して、組織の改変や、本部と支部の機能分担等について、検討を進めている段階です。

8. 財務体質の強化

J I Dの運営は、主に会員からの会費によって、賄われています。

年度によって異なりますが、収入総額のほぼ60～70%に当たります。従って会費の未収入が多いと、大きな支障が生じますので、前納を原則とした期日内の納入にはぜひご協力下さい。

今後は支部事業においても、事業収入をあげることや、会員の増加を計ることなどによる収入増が望まれます。

一方、支出については、少しの無駄も許されません。社団法人ではとくに厳しい監査が行なわれます。事業活動において発注する場合は、本部あるいは支部の事務局が発注、管理することを原則としています。

同時に、年間予算に占める支部事業への重点配慮について、財務体質の強化を勘案しつつ継続的に検討しています。

他方、諸物価が上昇しているのに対し、会費の額は11年間改訂されていません。値上げはできるだけ遅らせたいと考えていますが、すでに収支のバランスの保持が困難になりつつある点は、ご理解いただきたいと思います。

9. 事務局機能の拡充

かねてから指摘されていた事務局の強化については、フルタイム勤務の事務局長の採用など、努力してきましたが、まだ理想的な状態とはいえません。

本部事務局は十分に機能できないほど手狭になっており、近い将来何らかの解決策を講じないわけには行きません。

また各事業支部の事務局も、事業の活性化を目指す上で、一層の拡充が必要になります。会員の奉仕にたよることのできる限界を越えている支部については、早急な改善が必要です。

本部と支部の連絡など、運営の合理化も課題です。組織あるいは財務のあり方と共に、抜本的な改善を進める時期にあると考えています。

10. アイデンティティの確立

J I Dとは何か，ということをこれまで以上に，より明確にしなければならない時期に至っています。

今回，理事会の考え方を提示するこの試みを進めたのも，その認識に拠っています。

理事会としては，従来の「J I Dの憲章」が，すでに時代の変化に即応しないなどの理由から，これに代るものとして，より簡潔なかたちでの「J I Dの信条」を次のようにつくりました。

J I D の 信 条

J I Dは，インテリアデザイナーとその分野に関連する人たちによる組織です。

私たちは，それぞれの分野において，よりよい生活環境を創りだすことにより，社会への貢献を目指します。

また，国際的な交流を計り，人類の明るい未来を築くように努めます。

この信条に掲げる精神に則し，専門家としての自覚と責任を，一層発揚していく必要を感じます。

これは広い視野に立ち，業務の依頼者はもとより，社会公益のために，創造性豊かなデザイン活動を進めて行くことにほかなりません。

同時に，教育，福祉，地域振興，国際協力等広範な業務分野で，専門家集団としての深い理解を示し，積極的に貢献することが期待されます。

以 上